

(平成28年3月31日現在)

**教育委員会に係わる事務の執行及び事業の管理について**

I 全般的事項

[2] 学校調査票

1 監査結果

(報告書21頁)

(1) 施設維持管理の早急な対応について

「学校調査票」によれば、施設の老朽化に関する質問に対し、エレベータの故障や雨漏りと記載した学校園が20校園程度もある。雨漏りは通常放置しておく、漏電による火災の危険性や建物の寿命が短くなるおそれがある。また、放置する期間が延びるほど原状回復費用が増大する可能性もある。「2. 水道管工事についてp43」で記載している学校の水道管工事とも合わせ、現時点での修繕費と、放置して施設を劣化させた後の修繕費や水道代の損失金額等を比較検討し、必要最低限の修繕等は適時に実施されたい。また、特に安全に係わる部分については、より早急に対応すべきである。

(講じた措置の内容)

教育施設は大半が老朽化の状況にあり、児童生徒の安全に関わる緊急修繕についてはこれまでから適宜対応しているところです。一方で、より効果的に施設の延命化を図る手段として、老朽校舎等を保有する教育施設から、計画的に大規模改修(施設全体を対象とした改修工事)に着手しています。

また、緊急修繕ではありませんが、大規模改修まで待てない中規模の改修については、建築基準法第12条に基づく点検結果等も踏まえて、効率的で効果的な工事について建築課や財政課とも連携し対応していきます。

(教育委員会 教育総務課)

### [3] 学校園と教育委員会等との連携の視点

#### 1 意見

(報告書 23 頁)

#### (3) 防災危機管理への対応

総務部危機・防災対策課において、「防災マップ・カルテ」として、市民に向けて土砂災害や活断層の危険地域であることを公表し注意喚起を行っている一方で、この「防災マップ・カルテ」について、教育委員会をはじめ、大津市全体として、その公表結果を受けた大津市内の公共施設の安全性の検討がなされていない。すなわち、大津市役所内で横の連絡が十分にできていない。今後、総務部危機・防災対策課が中心となってさらなる調査や検証を行い、市全体として学校地をはじめとする公共施設としての適正性を慎重に検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

本市が作成している防災マップは、災害に対する危険性や安全性に関する様々な情報を市民に提供し、住民一人ひとりが地域において危険な場所を点検し、防災情報を収集するなど、日頃の備えを万全にし、いざというときに土砂災害に対する確かな判断をし、避難行動をとっていただくことを目的としているものです。

また、このマップは活断層や危険箇所等の位置や区域について概ねの位置を示したもので、学校をはじめとする公共施設の建設に当たりその安全性を調査、検討する目的で作成されたものではありません。

このことから、学校をはじめとする公共施設の建設等に当たっては担当課においてそれぞれ対応するものと考えますが、土砂災害警戒区域や活断層の存在が想定される以上、災害に対する備えや対策は必要でありますので、各部局において公共施設の新築、改築等がある場合には、危機・防災対策課まで報告するものとし、施設の安全性を検討する上で参考になるよう、担当課に対し防災マップの有効利用を含め情報提供をしていきます。このことについて、平成 27 年 4 月 1 日の部長会において庁内に周知を行いました。

(総務部 危機・防災対策課)

#### [4] 合規性監査の視点

##### 2 意見

(報告書 23 頁)

###### (1) リース契約について

「科学館常設展示更新事業 p 171」や「リース契約について p 199」で記述しており、その他のヒアリングの中でも散見されたが、リース会社の選定に関しては入札等の手続が規定されているものの、リース契約を締結する際のリース対象物品の範囲や選定方法に関する大津市としての契約上の規則が整備されていない。

規則が整備されないなか、所管課では個別対応されているが、規則上明示がないため入札等の手続が行われていないこともあり、見積合わせ等が実施されていても書面上記録が確認できないケースもあった。リース契約による物品取得が頻繁に見られるようになるなか、リース対象物品をいかに決定するかと言うことが実質上重要となるために規則の整備を行う必要がある。

###### (講じた措置の内容)

平成 26 年度には、リース契約事務の基本的な方針をまとめた素案を作成し、平成 27 年度には素案を元に契約実態や関係課の意見を集約し、リース契約事務についての根拠法令と事務処理手順を示すものとして、「リース契約ブック」を作成し、平成 27 年 9 月に全所属へ周知しました。

(総務部 契約検査課)

(報告書 23 頁)

###### (2) 職員ローテーションについて

教育委員会内には、技術を要する職種の職員がいることもあり、同じ担当部局で同じ職務が長期化しているケースが見られた。許認可が行われたり、業者選定が行われたりする部門に長くいるとどうしても業者との癒着等が問題になることが過去の不正事例等から見られるので、不正の防止の観点から技能職といえどもある程度の年数で担当部局の異動を行うか、少なくとも職務分担の変更を行うよう配慮されたい。

###### (講じた措置の内容)

組織の硬直化を防ぎ、活性化を図るとともに、一方では特定業者との接触などを防ぐことから、同一部署の長期間在職者に対する定期的な人事異動並びに業者との接触における複数による対応やチェック体制が必要と考えており、その対応に努めているところです。

技術職員については、事務職員と比して配属先が限定されることから、コンプライアンスを推進する上でも、同じ所属において職務分担を変更するなど、複数の職員が業務を担当できる体制等について、努めていく必要があると考えます。

(総務部 人事課)

## [5] 3E 監査の視点

### 1 監査結果

(報告書 24 頁)

#### (1) 施設整備計画の必要性

「公民館施設の適正規模について P150」、「公民館整備に係わる長期計画の必要性 P150」で述べているとおり、公民館の利用率が非常に低い状態である。田上公民館は平成 24 年度に建替えられ新築となっているが、利用度は相変わらず低率で、新設された展示室は未だ利用されない状態が続いている。(平成 26 年 1 月末時点)

施設整備を行う際には、現状での利用状況を十分考慮し、長期的な整備計画に基づいて実施すべきである。その際、新規の施設整備だけでなく、大規模改修や前述した雨漏り等の修繕工事の必要額も十分検討し、教育委員会全体として、長期計画を策定されたい。

#### (講じた措置の内容)

公民館の施設整備については、支所、公民館を併設した市民センターとして整備を図っており、その施設整備費については支所費において予算化しています。そのため、施設整備や大規模改修に当たっては支所所管課と十分協議を行い、調整を図っていきます。

また、小中学校施設の施設整備については、学校等施設整備計画に沿って計画的、効率的に施設整備を実施するとともに、公民館、生涯学習センター、和邇文化センターや北部地域文化センターなどの社会教育施設、歴史博物館など、教育委員会が所管する施設全体の整備計画は、中期財政フレームとの整合を図りつつ、施設整備を実施していきます。

(教育委員会 教育総務課、生涯学習課)

2 意見

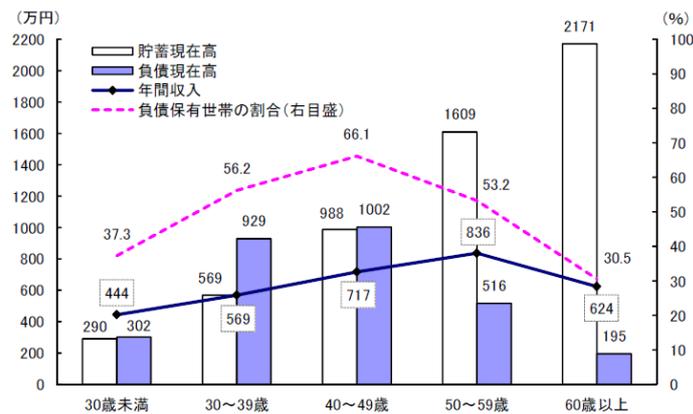
(報告書 24頁)

(1) 利用料金の減免と観覧料の無料者について

「公民館 p 124」で記述しているが、公民館の利用者のうち利用料を支払っているのは1割程度である。公民館は、社会教育施設であり、自主事業や地元自治会等が利用料金を減免されることは問題ないが、利用の過半は登録されている「利用者団体等」であることを考えれば減免される団体の登録基準の妥当性については検討を要する。(p 151 参照)

また、科学館、歴史博物館において、市内在住の65才以上の者は無料とされているが、現在の平均的な資産状況等からは、高齢世帯の方が若年世帯に比べ裕福な状態であり、高齢者を無料にする必要性について検討されたい。

世帯主の年齢階級別貯蓄/負債現在高(二人以上のうち勤労者世帯) —平成24年—総務省統計局資料



(講じた措置の内容)

公民館使用料の減免については、施設使用料減免規定見直し方針に基づき条例改正を行い、平成27年11月市議会通常会議において議決を得ています。併せて利用者団体の登録要綱及び登録基準を改定し、公益性に係る判断基準を厳格化しています。科学館、博物館の高齢者無料の取扱いについても、施設使用料減免規定見直し方針に基づき条例改正を行い、平成27年8月市議会通常会議において議決を得ており、科学館については全額負担、歴史博物館については5割減額にそれぞれ改定しています。

(教育委員会 生涯学習課)

## II 学校教育関連

### [1] 学校管理経費一人件費

#### 1 意見

(報告書30頁)

##### (1) 用務員の適正配置人数について

教育施設の管理責任は教育委員会にあるが、用務員の業務量について、正確に把握することができていない。用務員業務を委託する関係もあり、実施した業務内容を正確に把握する必要がある。その上で、学校園の規模、業務量によって配置を適切かつ柔軟に増減すべきである。

例えば、中央小学校と大津幼稚園のように、近接している校舎では、それぞれ1人ずつ配置するのではなく、合わせて1人でも対応可能と思われる。近接する校舎ごとを1グループとして複数校担当させるなど、用務員の配置を柔軟に対応すべきである。特に中学校は、他市町と比べても、大津市の原則各校2人の配置は多いように考えられ、本当に必要な配置か再考する必要がある。

用務員の屋外での作業の主な業務には、夏季の除草作業があるが、そのために1人配置する必要があるのであれば、除草作業を外部へ業務委託することも検討すべきである。また、用務員業務委託契約の業務内容に、「職員室の配膳」があるが、配膳は、それぞれの教職員が行えば足りると思われ、業務内容に含めないことを検討されたい。

##### (講じた措置の内容)

市立中学校の用務員の配置人数の見直しについては、平成27年度は、各中学校に勤務する用務員から現地でヒアリングを行い、各中学校における用務員の業務の実態・特性を把握した上で、原則2人の配置を1人配置とした場合に、勤務時間の制約等により履行しきれないこととなる業務を抽出し、それらを業務委託することで1人配置での業務が成り立つか否かの検討を行いました。

その結果、一定の代替業務を委託により実施することで1人配置が可能であり、かつ、経済的合理性も見込めることから、職員組合との協議を経て、平成27年12月に配置基準の見直しを行い、平成28年度から1人配置とすることを決定したものです。

なお、幼稚園、小学校の用務員配置については、他都市の状況、本市の業務実態、これまでの非正規職員化による予算削減効果等を踏まえ、現状を維持したものです。

さらに、用務員業務委託契約を見直すこととし、業務内容から「職員室の配膳」を除外しました。

(教育委員会 教育総務課)

[2] 学校管理経費－物件費

2 意見

(報告書43頁)

(1) 光熱水費等の管理について

消耗品費や備品費など一部の費用については、各学校に予算が配分され、予算と実績の管理が行われるが、光熱水費（電気代、ガス代及び水道代）及び燃料費（冬季暖房用）については、学校にその支出の管理責任はなく、実費を教育委員会総務課が支払う。予算が配分されている経費については、各学校は予算を念頭に計画的に支出を行う。しかし、学校に予算配分されていない経費については、節減意識が希薄になりがちである。

平成24年度の瀬田小学校への経費配当額(予算)は年間4,279千円、日吉中学校へは5,188千円であり、この配当されている額については、各学校が慎重に支出管理を行っている。これに対し、水道代は1か月に瀬田小学校で3,225千円（平成25年7月）日吉中学校は3,362千円（平成24年8月）もの高額でありながら、その支出に関しては配当されている経費支出のように管理されてはいない。

<参考>

瀬田小学校及び日吉中学校の配当予算と執行額

(単位：千円)

	配当予算	執行額	差額	執行率
瀬田小学校	4,279	4,266	12	99.7%
日吉中学校	5,188	5,185	2	99.9%

光熱水費や燃料費は、気候などに左右される部分も大きく、コントロールしにくい経費ではあるが、各学校が予算を持ち、使用量及び支出額を把握できるようにすれば、より意識の高い、実態に応じた管理が可能となり、節減効果が生まれる。市の予算削減だけではなく、学校にもメリットがあるように経費削減額の一部を学校に還元するなどのインセンティブを与えている自治体もある。水道光熱費及び燃料費の無駄な支出を抑えるためには、各学校に予算を配分し、支出状況を監視する責任を持たせる仕組み作りが必要である。

(講じた措置の内容)

学校の光熱水費については、共有フォルダーに掲載した毎月の使用料金を学校で確認し、教職員の節水意識の向上に努めました。また、電気小売事業の自由化に伴い、入札により事業者を選定し、料金そのものの支出の抑制も行っているところです。

予算の持ち方については、平成28年度に向けて校長、事務職員の意見を聞くなど検討を行い、まずモデル校において光熱水費の予算を配当し、執行していく準備を進めています。

(教育委員会 学校教育課)

## (2) 水道管工事について

現在、漏水の事実を認識した後に、水道管の修繕工事を実施している。しかし、これまでの修繕の実態からわかってきたとおり、水道管自体の老朽化が激しく、漏水箇所を修繕しても、また数メートル先に負荷がかかり、漏水が起こることが常態化している。

平成 24 年度からは、修繕時に合わせて各施設の給水管などの部分的な取替えを行うといった対応も始められた。また平成 25 年度以降は、1 年あたり概ね小学校 2 校、中学校 1 校を予定している大規模改修の時に水道管の全面取替を行うとのことであるが、全部の工事が終了するのは早くても 15 年以上先である。漏水すると、1 校で年間 1,000 万円以上の不要な水道代が発生するなど多額の費用が発生するおそれもあるため、より迅速かつ適切な対応が求められる。そのためには、大規模改修を待たずに水道管の取替工事を行った場合の費用の試算、又は、その他の方法がある場合はその方法での費用の試算を行い、最も効率的・効果的な水道管の工事について建築課等とも連携し、年次的な計画を策定する必要がある。

### (講じた措置の内容)

より効果的に施設の延命化を図る手段として、老朽校舎等を保有する教育施設から、計画的に大規模改修（施設全体を対象とした改修工事）に着手しています。

しかしながら、大規模改修まで待てない水道管の改修については、予算を確保し一部取り組んでいるところであり、今後とも効率的な工事の実施に向けて建築課や財政課とも連携し対応していきます。

(教育委員会 教育総務課)

## [3] 工事請負費

### 1 意見

## (1) 最低制限価格の設定について

契約業者の選定手続は規定どおりに行われ手続上問題はない。しかし、結果的には、最低制限価格が予定価格の 90% 近くに設定され、落札業者以外の業者はその最低制限価格を下回ったため失格となり、応札業者の中で最高額（最低制限価格と一致）で入札した業者が落札することとなった。

大津市にとっては、自らが設定した最低制限価格での契約であるが、最低制限価格を下回って失格となった業者の中にも問題なく施工が実施できる業者がいたとすれば、相対的に金額が高い業者を選定したことになる。入札に参加した業者にとっては、施工能力や経営努力よりも、大津市が決定する最低制限価格を的中させた業者が落札できたという結果になっている。

そもそも、競争入札制度とは、売買・請負契約などにおいて最も有利な条件を示す契約

者を決める方法である。「ダンピング防止」及び「下請人の保護」という目的の最低制限価格制度を設定すること自体の必要性は否定できないが最低制限価格の設定次第では、競争入札制度の意味がなくなる可能性がある。今回のような応札状況になった場合には最低制限価格の設定経緯を分析再検討するとともに、今後、最低制限価格を設定する際には、過去の応札状況や建設コストの動向等を十分に配慮して行われたい。

また、大規模な工事については、一定金額を下回る入札があった場合に、適切な工事契約の履行が可能かどうか、ダンピングや、下請人に過重な圧力をかけていないか、大津市が入札者の積算根拠等について調査を行なったうえで業者を決定する「低入札価格調査制度」の導入も検討されたい。

(講じた措置の内容)

本市の入札においては、「ダンピング防止」及び「下請人の保護」等を目的として最低制限価格制度を導入しています。公共工事においては、品質確保が何よりも重要であり、過度のダンピングは品質低下につながる事から、最低制限価格を設定することは必要であると考えます。また算定基準については、中央公共工事契約制度運用連絡協議会モデルを活用しており、同モデルの改正に合わせて、過去4回の算定基準見直しを行ってきたものです。

「低入札価格調査制度」につきましては、工事の適正履行、品質の確保について調査を行うこととなりますが、入札から判定までの調査に一定期間を要することとなり、判定を行う職員の負担も大きいことから、制度の運用は非常に困難を伴うものと考えます。

なお、平成26年6月より入札の不正防止の徹底を目的とした最低制限価格の事前公表を実施しており、最低制限価格未満で失格となる案件はありませんが、今後も引き続き入札制度の適正化に向けた取組を継続していきます。

(総務部 契約検査課)

## [5] 学級崩壊への対応

### 1 監査結果

(報告書52頁)

#### (1) 学級崩壊の迅速な報告について

学級崩壊への対応が早期にかつ適切になされるためには、教師、校長及び教育委員会は、学級崩壊が「どのような状態」「どの程度の状態」を指すのか、その定義を大津市で統一して認識することが必要である。

また、教育委員会への報告や学校調査票にあらなかった「学級崩壊のような状態」が、監査人往査時の口頭の質問では聴取できたことから、学級崩壊について、学校からの報告が躊躇なくできるような組織環境作りについても検討されたい。

(講じた措置の内容)

「学級がうまく機能しない状況」とは、「子どもたちが教室内で勝手な行動をして教師の

指導に従わず、授業が成立しないなど、集団教育という学校の機能が成立しない学級の状態が一定期間継続し、学級担任による通常の方法では問題解決ができない状態に立ち至っている場合」と捉えています。

「学級がうまく機能しない状況」になった場合には、学校支援アドバイザーや指導主事等が指導助言を行い、学校を支援するシステムが構築されており、各学校より実態に応じた相談・報告がしやすいような環境を作っています。また、定期的・継続的に指導主事等が学校訪問を行い、「学級がうまく機能しない状況」になりつつある学級を早期に把握し連携することで、学校から躊躇なく教育委員会に実態を報告できるよう努めています。

(教育委員会 学校教育課)

(報告書 52頁)

## (2) 学級崩壊への対応の改善

各学校からの「暴力やいじめ、不登校状況など児童・生徒の問題行動等の状況報告」によれば、残念ながら平成 24 年度は、市内 2 つの学級が長期間にわたり学級崩壊が起り、解決されないまま 3 月を迎えている。その原因はさまざまであろうが、学校が教育機関として機能不全状態に陥って、義務教育を行う環境を提供できなくなり、児童生徒に大きな犠牲を強いたことは問題である。

学級崩壊には、原因が児童生徒にある場合、教師にある場合、両者の組み合わせなどがある。いずれの場合にも、現在の対応は、担任教師はそのまま、他の教員がサポートすることが多い。児童生徒に原因がある場合、原因となっている特定の生徒に対してサポートの教師が指導を行えば、学級が正常な状態に戻って担任教師は授業を行うことができることもある。しかし、教師に原因がある場合、他の教師が学級のサポートを行っても、授業を行う教師自身に問題があっては崩壊を解消することは難しい。

学校調査票においても、「学級崩壊に至る原因は？」という質問に対して、「学級担任の指導力不足・児童理解不足」、「学級担任と児童（生徒）との信頼関係不足」と担任教師の問題が挙げられている。

現在、担任教師に学級崩壊の原因がある場合でも、休職等の事由がない限り、学級担任を変更することはできず、このことが学級崩壊を長期化させる一因と思われる。

往査した学校で実際生じた学級崩壊の事例では、平成 24 年 10 月頃から学級崩壊の状態となり、管理職などが補助教員としてサポートを行ったが、依然、学級崩壊の状態は解消されなかった。その後、担任の教師が平成 24 年 12 月から精神疾患により休職したことにより、新たな担任が配置され、学級崩壊は解消したという。

学校長が、学級崩壊の原因が教師の指導力不足であり、改善には時間がかかると判断した場合には、年度途中でも担任を交代させ、新たな教師を配置できる人事体制を滋賀県教育委員会とも連携し大津市教育委員会として確立されたい。

(講じた措置の内容)

「学級がうまく機能しない状況」となった場合、市教委より学校支援アドバイザーを派

遣し、学校への支援だけではなく児童生徒への直接指導にあたるなど、迅速な対応に努めています。また、指導主事が学校訪問を定期的に行い、授業改善や学級経営に関する指導を続けています。中には校長の判断で、年度途中で担任を交代させて改善を図った例もあり、早期解決のためにそれぞれの状況に応じた最善策をとるよう努めます。

(教育委員会 学校教育課)

## [7] 学校図書館

### 1 監査結果

(報告書59頁)

#### (1) 学校図書の管理について

学校図書の管理は表計算ソフトで管理している図書台帳にて行われている。しかし、学校では図書台帳に記載されている本が、実際にあるかどうか現物を確認する蔵書点検を長年行っておらず、図書台帳に記載されている蔵書数が実態と一致していない。

一方、大津市では全学校にシステムを導入し、学校図書のデータベース化に向けた取り組みを行っている。平成24年度末には約半数の学校でデータベース化が完了しており、他の学校も年々完了に近づいてきている。データベース化するためには、本1冊1冊にバーコードを付ける必要があるため、蔵書をすべて確認することとなる。つまり、データベース化が完了していれば、データベースの蔵書数が実際の蔵書数であるといえる。しかし、大津市では、データベース化が完了している場合においても、図書台帳を正式な管理台帳と位置付け、蔵書数の報告を行うこととなっている。実際にデータベース化が完了した学校の報告で、図書台帳に多数の不明図書があることもわかっており、図書台帳を正式な管理台帳とすることが正しいとは言えない。少なくともデータベース化が完了した学校については、図書台帳が正しいという特段の事情がない限り、データベースの数値を利用すべきであり、データベース化が完了していない学校についても、速やかに完了に向けて作業を行い、正しい蔵書管理を実施する必要がある。

#### (講じた措置の内容)

学校図書のデータベース化については、完了に向けて順次作業を進めています。また、従来の図書台帳とシステムによるデータベースの二重化を解消するために、図書館管理システムを正式な管理台帳として扱い、適正な管理に努めるよう学校に通知しており、従来の図書台帳については廃棄する方向で検討しています。

(教育委員会 学校教育課)

## [8] 私立幼稚園運営費補助金

### 1 意見

(報告書 6 1 頁)

#### (2) 確認書類の様式について

大津市は決算書から必要項目のみを集計した収支決算書の抄本（支出の部については人件費、教材費及び管理経費の集計）を各幼稚園から提出してもらい、補助金の支給額が補助金の対象となる人件費、教材費及び管理経費の支出額をそれぞれ超えていないかを確認している。しかし、人件費に教員人件費のみを記入している幼稚園もあれば、教員及び職員人件費を記入している幼稚園もある。さらに、教材費の項目に消耗品費を記入している幼稚園もあるなど、集計方法が統一されていない。大津市は当資料に基づき、補助金の妥当性について補足確認を行っているのであるから、当資料の趣旨を各幼稚園に説明し、報告書の作成方法を統一させる必要がある。

また、各幼稚園には上記収支決算書の抄本の確認のため、決算書の提出も義務付けている。しかし、実際には全 9 園のうち決算書全体を提出しているのは 1 園のみであり、8 園については決算書の一部又は、別途作成した資料を提出している。各園には、正式な決算書の添付を義務づける必要がある。

#### (講じた措置の内容)

これまでは予算書及び決算書の抄本の提出を求めていましたが、御指摘のとおり正式な予算書及び決算書の提出を求めることとし、平成 26 年度分の実績報告から実施しました。

(福祉子ども部 保育幼稚園課)

(報告書 6 1 頁)

#### (3) 補助金の支給について

大津市補助制度適正化基本方針は、補助先の自主自立を促進し、また自主財源確保の促進を目指している。当該方針から考えると、財務状態が既に自立している園についてまで補助金を支給する必要があるとは言えない。支給基準について再検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

各幼稚園の補助金の必要性については、各々の財務状態だけでなく、これまでの経過や私学助成との関連からも検討する必要があると考えています。平成 27 年度は、子ども・子育て支援新制度が実施されたことに伴い、子ども・子育て支援法に基づく特定教育・保育施設に移行した私立幼稚園について当該補助金の対象外としました。

(福祉子ども部 保育幼稚園課)

## [9] 滋賀県小中学校長会等負担金

### 1 意見

(報告書64頁)

#### (1) 負担金の妥当性

地方公務員については、職員団体制度（地方公務員法第52条）をとっており、地方公共団体の当局は、登録を受けた職員団体から、職員給与、勤務時間その他の勤務条件に関し、適法な交渉の申入れがあった場合において、その申入れに応ずべき地位に立つものとする（地方公務員法55条）。

小、中学校長会は、職員団体に登録していないということから、本来、教職員の人事改善、給与改善、退職時並びに退職後の処遇改善を県教育委員会、市町教育委員会に要望することはできないものであり、滋賀県教育員会、市町教育委員会もその要望に応じる必要がない。

滋賀県小学校長会、滋賀県中学校長会は、特定の国会議員に要望を行うなどの政治的活動や労働条件等改善活動など本来大津市が負担金を支出する団体として認められない活動を行っている部分があると考えられる。

従って、大津市がそのような活動を行う各会に、会の活動を行うための費用を負担することには疑義があると思われ、各会の活動内容を精査して、負担の是非につき検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

確認したところ、滋賀県小学校校長会、中学校長会、小中学校教頭会とも、御指摘のような要望活動、政治的活動は行っておらず、今後も、引き続き活動内容を十分に精査し、適正な負担金の執行に努めていきます。

(教育委員会 学校教育課)

## [10] 学校の適正規模

### 1 意見

(報告書72頁)

#### (1) 小中学校適正規模の検討の必要性

現在、大津市では小、中学校の適正規模について検討がなされていない。しかし、今後、ますます児童数、生徒数の減少によって小規模校が増加していくことが予想され、適切な教育環境が維持しにくくなる。大津市は、国が定める標準規模を参考にしつつも市の実状に合った独自の標準規模を定め、適正規模の検討を開始する必要がある。

また、学校、保護者、地域が学校の適正規模を考える場をいかに提供するかも検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

平成 27 年度は、前年度に続いて検討を深め、学校規模等の適正化に係る基本方針を策定しました。同方針では、基本的な考え方、適正化の観点、学校規模ごとの課題に応じた教育環境の充実策等のほか、学校、保護者、地域における検討の枠組みと過程を具体的に示したところです。

(教育委員会 教育総務課)

## [11] 防災危機管理

### 1 意見

(報告書 80 頁)

#### (1) ハード面の対策

学校園は、児童、生徒が、安全に生活を送ることが保証されなければならない。また、地域の災害時避難所としての重要な役割を持つ。

大津市では、小学校、中学校については、耐震改修促進計画で第一優先と位置付けられており、現在耐震改修が必要な建物は概ね改修が完了しており、評価するところである。

しかしながら、校地が活断層所上にあると考えられる学校園では、耐震性に関係なく建物が倒壊する危険性が高い。また、土砂災害危険箇所にある学校園では大雨だけでなく地震による崖崩れなどのおそれがある。これらについて、今後、総務部危機・防災対策課が中心となってさらなる調査や検証を行い、学校地としての適正性を慎重に検討されたい。

移転や土砂災害防止工事には莫大な費用を要するが、専門家による詳細な調査の上、危険性に対する行政判断が下された場合には、行政の不作为とならないよう遅滞ない対応が必要である。

#### (講じた措置の内容)

本市の防災マップにおける活断層の位置は、都市活断層図(国土地理院編)や近畿の活断層図(岡田・東郷編 2000)を参考に作成し、土砂災害警戒区域の指定は、土砂災害防止法に基づく滋賀県の調査をもとに作成したものです。また、活断層や土砂災害危険箇所等の位置や区域は概ねの位置を示したもので、学校をはじめとする公共施設の建設にあたりその安全性を調査、検討する目的で作成したものではありません。当課がさらに建物の安全性を調査、検証することには限界があり、学校地としての適正性を判断することは難しいと考えます。

このことから、学校地としての適正性は、担当課において対応するものと考えますが、活断層や土砂災害危険箇所の存在が想定される以上、災害に対する備えや対策は必要でありますので、各部局において公共施設の新築、改築等がある場合には、危機・防災対策課まで報告するものとし、施設の安全性を検討するうえで参考になるよう担当課に対し防災マップの有効利用を含め情報提供をしていきます。このことについて、平成 27 年 4 月 1 日の部長会にて庁内に周知を行いました。

なお、土砂災害特別区域内では、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等

が行われています。

(総務部 危機・防災対策課)

(報告書 81 頁)

## (2) ソフト面の対策

東日本大震災では教師の危機意識の差が児童生徒の生死の差に直接大きく繋がった事例がある。

大津市においても、土砂災害の危険が高い学校においては、災害時特に教師の迅速適格な判断が求められる。各校独自に「どのような場合には、どこが危険で、どうすれば安全か」を確認して防災対策を推し進めるために、地域の防災組織等と専門家に意見を求め連携することが必要である。

### (講じた措置の内容)

現在、市内全小中学校に、各学校に応じた具体的な防災教育の内容を考え、教育政策の一環として防災教育を中心になって進めていく役割を担った学校防災教育コーディネーターを配置するとともに学校防災委員会を設置しています。学校防災教育コーディネーターは、滋賀県学校防災教育コーディネーター講習会に全員参加し、災害時に迅速的確な判断ができるよう、資質及び危機管理意識の向上に努めています。また、地域の実情に応じて、消防署や自主防災会等との連携をとって防災体験学習を行っている学校もあり、消防署等に学校防災教育アドバイザーを依頼し、専門家に助言をいただきながら各校での防災対策を推進しているところです。今後は消防局が所管する避難所運営・宿泊体験訓練や、生涯学習課が所管する青少年等を対象とした防災キャンプ推進事業とも連携を図りながら防災教育の推進を図ります。

(教育委員会 学校教育課)

## [12] 学校徴収金

### 1 意見

(報告書 90 頁)

## (1) 公費と私費の区分

### ① ドリルとテスト

「公費・私費負担区分」(以下「区分通知」)の表によると、公費負担すべき経費として、「学級又は学年の全員が関わり、授業等の実施及び学力の判断を行う上で、必要不可欠と思われるもの」がある。テストや授業で使うプリントは必要不可欠な経費に該当するが、教師が作成したものは公費であるのに対し、業者から購入したものは私費となっている。本質的に考えれば、業者から購入したテストやドリルであっても授業等の実施及び学力の判断を行う上で必要不可欠であれば公費負担とすべきである。

業者から購入する漢字ドリルや計算ドリルは1冊あたり約300円程度で年間約6冊の購入となっている。最近では、教育委員会で独自のドリルを作成し、児童、生徒の学力向上に寄与している自治体もでてきている。漢字ドリルや計算ドリルは、一度作れば、基本的な部分は何年も使い続けることができることから、教育委員会において独自のドリルを作成することで、業者から購入するよりも安価とすることができ、保護者のドリルの購入負担を軽減することが可能であると思われる。保護者負担を減らすため、また、大津市の児童の学力向上のため、業者テストやドリルではなく、教育委員会がテストやドリルを独自に作成し、全校共通で使用することを検討されたい。

(講じた措置の内容)

教育委員会がテストやドリルを大津市独自に作成して活用することについては、予算等の措置も必要となり、教育センター所管の教科等領域別研究部会との連携だけでは難しいと考えております。

県教育委員会からは、全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに作成した「学び確認テスト」および「学び直しプリント」が提供されており、各小・中学校では学力向上策に位置付けて継続的に活用しています。

業者から購入するテストやドリル類には、子どもたちの学習意欲を高めるような工夫がなされており、今後も有効に活用していきたいと考えておりますが、保護者の負担を考慮し、精選したうえで購入するよう努めます。

(教育委員会 学校教育課)

(報告書91頁)

(2)「要項」の周知徹底について

②徴収金の徴収方法について

「要項」によると、「集金事務においては、合理化、労力軽減、安全・確実な管理を図るため、現金集金ではなく口座振替制度を勧める」とある。しかし、幼稚園においては、その集金をすべて現金で行っている。「要項」にあるように、「安全・確実な管理」のためには、現金を扱うことはできる限り避けるべきであり、口座振替を行うことが望ましい。

(講じた措置の内容)

徴収金(行事費・教材費)を口座振替にするためには、金融機関の振替手数料が必要となります。その費用を平均月額500円前後の徴収金の中で賄うことは困難であり、また、徴収額に加算することは保護者への負担増となることから、現金徴収としています。

現金集金方法については、前もって集金日を指定し、集金した現金は所定の金庫に保管し、その日に金融機関に入金処理を行うことを徹底し、万全を期して取り扱っています。

(福祉子ども部 幼児政策課)

### (3) 学校徴収金の実務

#### ①学級費について

小学校について、徴収金を学年で統一して管理している学校、学級費としてクラス単位で管理している学校、両方を併用している学校がそれぞれある。クラスごとに特色を持つという観点から、学校によってはクラス単位に学級費を設けているとのことであるが、実際は同じものを購入していることが多いこと、学年全体で買ったものを各クラスに按分していることもあることなどから、学級費を設ける意義は薄い。学級費があれば、各担任がクラスごとの帳簿及び決算報告書を作成する必要があるが、学年費で統一すれば、作業効率上メリットがあり、教師の事務負担を軽減することができる。この観点から徴収は、学年で統一して、管理することも検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

校園長会において要請し、学校で検討された結果、現在では学級費を廃止した学校も多く、事務負担の軽減を図ることができました。

(教育委員会 学校教育課)

## III 学校給食・保健

### [1] 学校給食の実施

#### (1) 入札数の少ない品目について

前述したとおり、平成 24 年度 2 学期のその他の副食物資の入札において、入札参加業者がないか、あるいは 1、2 者となっている品目が全体の約 1/2 を占め、入札数が少なくなっている。これほど入札数が少なくなると入札制度としての効果が十分に得られないおそれがある。業者の登録数の問題、製造業者が少ないという登録業者の業種の問題、副食材料の「規格」の問題等、検討の余地がある。従って、効果のある入札制度とするためには入札数の少ない理由を調査、検討し、改善する必要がある。

#### (講じた措置の内容)

学校給食用の食品は外食産業や店頭で販売されている商品とは異なり、取扱う業者についても限定されていますが、より多くの業者が参加できるよう食材の規格、形態等について、調理時間や児童・生徒一人当たりの分量に影響のない範囲で規格に幅をもたすなど、見直しを行ったところであります。

また、平成 28 年度からは、三共同調理場の献立が重ならないようにサイクルメニューとするなど、大量発注することにより、参加業者が減ることとならないよう考慮しながら食材調達を行っていきます。

なお、平成 27 年度から食材調達が市の直営になることに合わせ、登録業者については広

報おおつ等により広く周知を図り、募集を行ったところであります。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書102頁)

(2) 副食物資(食材)の規格の見直し

学校給食会は、購入する副食物資に関して、各物資に規格を定めている。規格書のサンプルを参考として下記に添付する。

【規格書(サンプル)】

10	規 格	品 質 ・ 用 件	表 示	備 考	審査項目 (提出書類等)	
油揚げ(冷)	① 添加物を使用していないもの (凝固剤、消泡剤以外を使用していないもの)	① 適度に膨張していて、弾力のあるもの	・産地(都道府県名)を表示すること		原材料配合表 (食品表示法第23条)	アレルギー物質 (25品目表示)
	② 遺伝子組み換え大豆を使用していないもの	② 均一な揚げ色で、油ぎれのよいもの	・製造地を表示すること		○	○
	③ 主要材料 国内産大豆を使用		・凝固剤、消泡剤の原材料名を表示すること		栄養成分値	製造工程表
	④ 規格 バラ凍結品 1kg/袋				○	○
	⑤ 形態 刻み: 40×5mm  豆腐で生地を作り、酸化していない油で揚げたもの				細菌検査結果	見本品
					○	○
					※細菌検査項目 冷凍食品は冷凍食品の規格規準、凍結食品はそうざいの衛生規範によるもの	

規格には、①アレルギー物質、遺伝子組み換え食品、添加物等の不使用、すなわち「食の安全」に関することがまずあげられている。このうち特にアレルギー物質については最重要条件である。次に②食育基本法(平成17年6月17日法律第63号)に基づく大津市食育推進計画(平成20年4月)の推進のために「滋賀県産」といった地場産物(地産地消)の使用を定めた規格がある。

しかし、これらに対し調理上の便宜などのために定められていると思われるもの、すなわち③大きさや重さを制約する規格もある。例えば「豆腐(冷)」における「サイコロ状: 15mm(±2)角、(3g~3.5g/個)」というものである。このような規格は少し緩和できるとと思われる。

副食物資の規格には、それぞれに意味があると思われるが、業者が対応しづらい規格であれば応札の数を少なくしてしまうこともあり得る。応札数の少ない品目についてなぜ少ないのかを検討する際、その品目の規格について見直しをすることも必要である。

(講じた措置の内容)

食材の規格、形態等について、調理時間や児童・生徒一人当たりの分量に影響のない範囲で規格に幅をもたすなど、より多くの業者が参加できるように見直しを行ったところであ

ります。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書 103頁)

### (3) 物資選定の新しい制度の検討

納入物資の選定は、現在は2年に1度登録業者を選定し、その業者により定期的に入札を行って決定しているが、上述のとおり、入札制度の効果が認められない事案も散見された。そこで、新たな方法として、業者を登録制にするのではなく物資を登録制にすることも有効ではないかと考える。すなわち、これは業者に対して、どのような内容のもの(副食物資)をいくらで納品してくれるのか2年間契約で登録しておき当方が随意に発注するというものである。この場合、現在の入札事務の手間が省略できるほか、2年間材料の価格変動に対するリスクは業者負担となるという給食実施者側のメリットもある。

よって、現在の入札制度の延長だけで改善策を考えるだけでなく、入札が本来目的としている高品質かつ低価格が実現されるような物資選定の方法を広い視野をもって再検討されたい。

(講じた措置の内容)

物資選定方法については、献立の内容にあわせてその時々で規格を決定したり、食品問題等が発生した場合には、安全性や衛生面を考慮し、諸条件の設定や規格の見直しが必要となる場合があることから、短期間毎に選定する現在の方法が高品質で低価格のものを購入することに適していると判断しています。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書 103頁)

### (4) 副食物資の随意契約による調達について

「副食物資(食材)の入札の状況 p101」において、副食物資に「一部、随時契約のものもある。」と記述したが、滋賀県学校給食会から斡旋される物資の一部に随意契約のものがあり、アシドミルクという飲むヨーグルトが例外的に随意契約で購入されている。これについて担当者に質問したところ、この飲むヨーグルトが好評だったためこれに決めたが、当時その購入先が滋賀県学校給食会だけに限られていたため随意契約を行ったとのことであった。しかし、飲むヨーグルトは類似商品も多数あり、入札の原則を変えてまで随意契約を行う必要はないと思われる。さらに、現在は他の業者でも本品が取り扱われているとのことであった。また、アシドミルクの購入には指定振込用紙による振込が求められるため、事務局がそのためだけに所定の銀行に出向く手間も生じている。随意契約を行う理由がない物品については、入札により購入業者を選定されたい。

(講じた措置の内容)

学校給食の主食や牛乳は、(公財)滋賀県学校給食会(以下「同会」という。)が県内市町分をまとめて取り扱う物資であり、飲むヨーグルトも主食と同様に同会との契約により購入しています。

また、同会の取り扱い物資は、県内の教育関係者、PTA等による物資選定委員会で安全で低価格であると判断された食品であり、県内の他市町においても大津市と同様に使用されているものであり、引き続き購入していきます。

なお、学校給食会計については、平成27年度から公会計となり、購入及び支払いについては、大津市が行っています。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書104頁)

#### (5) 自校方式の給食について

副食物資(食材)については、3か所の共同調理場と、志賀中学校、葛川小・中学校へ食材別に各納入業者から配送されているが、遠隔地で少量である志賀中学校、葛川小・中学校へも個々の業者が各々配送している。その配送の手間は、業者にとっては負担である。それに加えて、生鮮野菜や精肉などの納入時間の問題もあり、業者によっては人員増などの経済的負担にもなると考えられるが、その負担は納入価格に付加して調整されることとなる。すなわち、志賀中学校、葛川小・中学校のために、大津市の給食費全体が割高なものになっている懸念が存在する。

##### ①葛川小・中学校の給食について

前述のとおり、葛川小・中学校への食材の現在の配送方法はあまりにも非効率で業者への負担が大きいと思われる。現在では、道路事情が改善されているので、北部共同調理場から葛川小・中学校へ片道40分で配送が可能となっている。

そこで、葛川小・中学校の給食については、北部共同調理場での共同調理場方式に移行することを検討されたい。あるいは、僻地であることから自校方式を継続するとしても、北部共同調理場で葛川小・中学校の食材をまとめて、一便で配送し自校で調理する方法などを検討されたい。

##### ②志賀中学校の給食について

志賀中学校で例外的に給食が行われているのは、平成18年3月の大津市と志賀町が合併時の合併協定に基づくものであり「当分の間、現行のとおり」続けるとしたものが今も続いているのである。しかし、合併から5年以上経過し、志賀中学校の給食は終了すべき時期になっていると考える。

志賀中学校で給食が行われていること自体、他の中学校の生徒、保護者に対して公平性を欠いており、志賀中学校の給食は廃止を検討すべきである。

(講じた措置の内容)

①葛川小・中学校の給食について

大津市立中学校の昼食のあり方について、平成 26 年度に検討を行い、市内全中学校において給食実施に向けて今後、取り組んでいくこととなったことから、現在の調理施設を最大限有効活用し、自校方式を継続していきます。

なお、食材の納入についても安全、衛生面を考慮しながら 2、3 日分をまとめて納入させるなど、効率的に行っています。

(教育委員会 学校給食課)

②志賀中学校の給食について

大津市立中学校の昼食のあり方について、平成 26 年度に検討を行い、市内全中学校において給食実施に向けて今後、取り組んでいくこととなったことから、現在の調理施設を最大限有効活用し、自校方式を継続していきます。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書 103 頁)

(6) 学校給食共同調理場の委託業者選定の基準

学校給食共同調理場（北部、南部、東部）の委託業者の選定は現在プロポーザル方式によって行われている。その選考過程において、参加業者に対して書面資料として決算書等は提出させているがその財務内容は選考基準になっていない。仮に応募業者が債務超過の状態であっても、現在は財務面では評価されず、他の会社と同等に評価され選ばれる可能性がある。しかし、学校給食共同調理場の業務委託については、契約期間中安定的に委託業務が行われる点が非常に重要であり、財務の安定性の観点を選考基準に含める必要がある。

(講じた措置の内容)

【 措置・改善済 】

平成 27 年度に実施した学校給食業務委託業者選定のプロポーザルにおいて、新たに「企業の財務状況」を審査項目に加えており、決算書類の評価に当たっては専門的知見を有する滋賀県中小企業診断士協会に意見を求め、その結果を踏まえた審査を行いました。

(教育委員会 学校給食課)

[2] 給食費の徴収

1 意見

(報告書 107 頁)

(1) 給食費の未納状況等の保護者への説明

現状、給食費の未納状況ないし 3 月給食費の調整について保護者への説明が行われていないが、学校別に情報開示して説明すべきである。

(講じた措置の内容)

平成 27 年度から給食費については、学校会計ではなく、大津市の歳入歳出予算に計上する公会計となり、1 食当たりの単価に給食食数を乗じて 1 か月毎の給食費を計算し、徴収しているため、給食費の調整は行っておりません。

また、平成 27 年度から給食費に係る未納額を含め、歳入歳出の状況等が明らかになっています。

(教育委員会 学校給食課)

(報告書 107 頁)

(2) 3 月給食費の調整状況の把握

学校保健体育課では 3 月の給食費について調整方法の指導を行っており、また個別に学校側からの相談にも応じているが、実際にどのような調整を行ったか、全ての学校に対して具体的な調整内容までの把握はしていない。しかし、異常な調整が起こる可能性もあるので、3 月の給食費の調整について、毎年徴収前に学校から報告させその内容を確認しておくべきである。

(講じた措置の内容)

平成 27 年度から給食費については、学校会計ではなく、大津市の歳入歳出予算に計上する公会計となり、1 食当たりの単価に給食食数を乗じて 1 か月毎の給食費を計算し、徴収しているため、給食費の調整は行っておりません。

(教育委員会 学校給食課)

[3] 医師・薬剤師への報償費

1 意見

(報告書 112 頁)

(1) 学校医等への報償費について

大津市の学校医等への報償費は、相対的に内科医が耳鼻科医・眼科医と比べて報償費が高い。幼稚園医と小・中学校医との比較では幼稚園医が高い。それは、幼稚園、小・中学校別に内科医、耳鼻科医、眼科医を比較した場合には内科医が幼稚園では約 3.7 倍、小・中学校では約 2 倍高いという差である。幼稚園医と小・中学校医との比較では内科医 3 倍強、耳鼻科医・眼科医約 1.7 倍の差であるが、内科医、耳鼻科医、眼科医とも園児、児童生徒 1 人当たり加算額は同じであるので、基本額の差から生じている違いである。

学校医等の業務は法律的には色々な役目を帯びているが、記録上確認できるものは主として定期健康診断業務である。校医の業務についてはこれまでの経緯や医師会等との関係もあるにせよ、固定部分の業務と変動部分の業務につき根拠を明確にしておかないと医師間に不平等が生ずる可能性もあり、他中核市との比較も参考にして、バランスのとれた金額

になるように見直しを検討すべきである。

(講じた措置の内容)

学校医等及び薬剤師の報償費の基準につきましては、平成 10 年に本市と三師会（大津市医師会、大津市歯科医師会及び大津市薬剤師会）との協議により決められたものであり、園児、児童及び生徒の健康保持増進を図るために、各医師等の業務負担の度合いにより定められたものであると認識しています。

現在のところ、三師会から報償費の見直しについての要請はありませんが、医師間の均衡を失することのないよう、報償費のあり方について、他都市の例も参考にしながら、これまでの経緯を踏まえ、今後も引き続き慎重に検討していきます。

(教育委員会 学校教育課)

#### [4] 学校開放事業

##### 2 意見

(報告書 1 1 7 頁)

#### (2) 運営委託費の見直し

運営委託費は現在、小学校、中学校ごとに一律に予算を決めて支出している（平成 24 年度はそれぞれ 204 千円、107 千円）。しかし、運営委員会で必要な費用は、設備の状況も施設の利用の状況も、各学区で異なるので本来差があり、一律ではないと思われる。

運営委託費の本質は学校開放を行うことに付随する管理業務の対価と考えられるので、管理業務量の把握を行うとともに、体育館の面積に比例したワックス等消耗品費の実際の発生金額も把握し、適切な運営委託費の設定を行われたい。

(講じた措置の内容)

昨年、各学校体育施設開放運営委員会に対し、管理業務量の把握をするための調査を実施しました。その結果を基に、平成 28 年 4 月よりワックス等消耗品を現物支給するなど委託料の見直しを図ったところです。今後も適切な委託料の設定と学校開放事業の運営方法について引き続き検討を行います。

(市民部 市民スポーツ・国体推進課)

(報告書 1 1 7 頁)

#### (3) 学校体育施設使用料の見直し

現在、学校体育施設の使用料は、平成 20 年 9 月に定めた実費相当額の照明料のみである。この照明料については、照明の電気料金実費相当額を徴収していることになっているが、前回定めてからすでに 5 年が経過しており、実態からかい離している可能性があるため、定期的の実費相当額の見直しを行う必要がある。

また、学校開放のための支出は、照明料以外にも、運営委員会への運営委託費、学校体育施設の補修、修繕費、電球等の交換費用などの学校体育施設開放事業費（平成 24 年度 12,718 千円）がある。さらに、体育館の床などが減耗されているという問題もあり、照明料だけを徴収するのではなく、学校体育施設使用料の見直しを検討されたい。

（講じた措置の内容）

学校体育施設開放事業の趣旨は、学校教育に支障のない範囲において学校体育施設を開放し、より多くの地域住民が日常生活の中でスポーツ活動に親しむことができる場を提供することにより、生涯スポーツの推進を図るものであります。

照明料につきましては、実費相当額徴収要領に基づき、電気料金の改定毎に見直し作業を行っているところです。

なお、照明料以外の施設使用料の徴収につきましては、「施設使用料設定基準」に基づく「受益者負担の原則」の観点から、他都市の状況も踏まえ、慎重に検討を行います。

（市民部 市民スポーツ・国体推進課）

## [ 5 ] 社会体育施設

### 1 意見

（報告書 1 2 1 頁）

#### （1）社会体育施設の使用料の見直し

上記「社会体育施設の使用料収入」の表のとおり、社会体育施設の平成 24 年度の使用料収入は 6,247 千円である。一部、和邇市民運動広場の収入が 2,491 千円と高額であるのは併設のテニスコートが有料であるためと推量され、それ以外の施設が概ね少額又は収入が無いのは、主に使用料が無料ないし大津市民が無料であるためと考えられる。

これに対して発生している社会体育施設管理運営事業費に含まれる管理・維持費用は 25,157 千円であり、厳密には指定管理施設の維持費用も一部含まれるが、社会体育施設の使用料収入よりも多額である。

社会体育施設の使用料は、施設の状態も異なるため他の近隣の市との比較も一概にできない。しかし、例えば大津市民は無料となっている市民運動広場においても管理費は発生している。また、体育館等、建物、施設、備品を有する施設でも経年や使用による減耗は生じており補修修繕費が発生する。このような状況及び収入が支出よりも少ない現状に鑑みて、特に無料の施設は有料化し、使用料は必要な経費が確保できるよう見直しを検討すべきである。

（講じた措置の内容）

社会体育施設は、市民のスポーツ、レクリエーションの普及振興や市民に場を提供することにより健康の保持増進を図ることを目的に設置された施設です。

無料施設の有料化につきましては、「施設使用料設定基準」に基づく「受益者負担の原則」の観点から、他都市の状況や施設の設置目的等を鑑み、慎重に検討を行います。

(報告書 1 2 1 頁)

(2) 使用料の収納に係る内部統制

社会体育施設に関して、現在、利用希望者は各施設の管理職員に対して申請書を提出し必要な場合は使用料を納付してから使用許可を受け使用できる手続となっている。しかし、使用許可は実質管理職員の裁量に任されており、管理職員がもし不正に正規の手続を踏んでいない者に使用をさせたとしてもそれをチェックする仕組が整備されていない。このような危険性に鑑み、市民スポーツ課では社会体育施設の使用計画（予定表）を提出させて、使用計画と実際の使用との照合を行い、抜き打ち検査も行うことなどを制度化して不正に対して牽制を行う体制を作る必要がある。

(講じた措置の内容)

職員による相互牽制を図るため、事前に施設管理職員から利用予定表の提出を求めています。また、施設の不正使用に対しての牽制は、1、2か月に1回の抜き打ちの施設訪問を継続して行うほか、年度当初に利用団体の構成員を把握することにより、申請者以外の不正使用を防止していきます。

(市民部 市民スポーツ・国体推進課)

[6] 大津市体育協会

1 意見

(報告書 1 2 2 頁)

(1) 体育協会の所在地

体育協会は、その事務所について「本会は、事務所を大津市御陵町3-1 大津市教育委員会市民スポーツ課内におく。」(大津市体育協会規約第2条)とし、実際に市民スポーツ課と同じ室内の近接した場所で業務を行っている。これは市民スポーツ課との連携で一面非常に合理的な面もあるが、市とは独立した任意団体がその事務所を市役所内に置くことには問題がある。よって、体育協会は、規約も改正して、市が市の管理する施設の使用に便宜を図るとしても市役所とは別の場所へ移転すべきである。

(講じた措置の内容)

大津市体育協会は、大津市の生涯スポーツ社会の実現を行政と一体となり推進してきた団体であり、当課と同じ室内の近接した場所で業務を行ってきたところです。

しかしながら、費用負担の明確化や個人情報保護の重要性を鑑み、協会の自主自立に向けた支援を行うとともに、事務所の移転について今後も引き続き協会と協議を行っていきます。

(市民部 市民スポーツ・国体推進課)

(報告書 1 2 2 頁)

## (2) 体育協会の収入

体育協会の平成 24 年度一般会計決算書によると、支出 20,708 千円に対して収入 20,839 千円であった。このうち大津市からの支出金 16,362 千円は「I.概要」に記載したとおりであるが、差額 4,477 千円は、概ね会費収入 3,259 千円、賞状売上、協賛金等の雑入 1,056 千円である。

会費収入は、小学校体育連盟、中学校体育連盟、大津市スポーツ少年団を除く加盟 78 団体からの加盟費 (1 団体 1 万円)、個人、団体からの賛助会費、各種大会・スポーツ教室参加料であり雑入の中には企業からの協賛金も含まれる。

大津市は、体育協会へ平成 24 年度人件費等の事務局費 12,603 千円を補助金として支出しているが、体育協会が市民、企業への理解を高め上記加盟費、参加費、賛助会費、協賛金等の収入を増やすことによって、大津市は体育協会への補助金を減らすことも可能である。よって、今後体育協会が大津市の補助金以外の収入を増やす活動を推進するよう大津市は働きかけを行っていくべきである。

(講じた措置の内容)

大津市体育協会への補助金については、大津市補助金制度適正化基本方針に則り補助事業の一部廃止を行うとともに、委託事業への転換を図っていきます。また、大津市体育協会では、自主自立に向けた自主財源確保のための賛助会員の拡大、事務局員の適正化にも努められています。

今後も引き続き大津市体育協会の体制強化に向け、働きかけを行っていきます。

(市民部 市民スポーツ・国体推進課)

## [7] 市民スポーツ振興

### 1 意見

(報告書 1 2 3 頁)

## (1) スポーツ振興費の有効性

スポーツ振興費は大津市スポーツ振興計画推進のために支出されているものであり、これによって多くの市民スポーツが振興されなければ意味の乏しい使い方であったということになる。

スポーツ振興に対する支出の有効性を、参加人数や一人当たりの支出金額など数値で判断することは、困難ではあるが、毎年同様の事業を継続する場合は意義と有効性につき十分検討されたい。

(講じた措置の内容)

スポーツ振興費については、平成 28 年 3 月に新たに策定した「大津市スポーツ推進計画」の目標像である、「スポーツを共に創り 楽しむまち大津～スポーツを通じて とびっきり

の笑顔に！！」の実現のため、「PDCA」サイクルでのマネージメントを行い、事業の具体的な取り組みの質の維持・向上、継続的な改善を図っていきます。

(市民部 市民スポーツ・国体推進課)

#### IV 社会教育関連

##### [1] 公民館

##### 1 監査結果

(報告書150頁)

##### (1) 公民館施設の適正規模について

昭和35年に当時の文部省が通達として示した「公民館の設置及び運営に関する基準」の取扱いでは、公民館の事業の主たる対象となる区域については、一般的に言えば、市にあるのは中学校の通学区域を基本とするとされていた。しかし、その後基準が見直され平成15年の文部科学省告示によると、公民館を設置する市町村は、公民館活動の効果を高めるため、人口密度、地形、交通条件、日常生活圏、社会教育関係団体の活動状況等を勘案し、当該市町村の区域内において、公民館の事業の主たる対象となる区域を定めるものとするとして、小学校区や中学校区といった画一的な区域の定め方から、状況に鑑みて弾力的に対象区域を定めるよう改正されている。

大津市立公民館は、概ね各小学校区に1公民館が整備されているが、現状の稼働率の低さを考えると、今後の整備については検討が必要な段階にきていると言える。大津市は、将来的に人口が減少していく見通しであり、現状の稼働率や運営費などを踏まえながら、従来どおりの画一的な施設整備ではなく、各種状況を勘案した将来的な公民館施設のあり方を検討すべきである。その中で、現況及び将来見通しを踏まえれば、公民館の設備や貸室等の施設は必要最低限にすべきであり、公民館数について縮小することを検討すべきである。

##### (講じた措置の内容)

平成25年12月5日の教育委員会において、現在の1小学校区1公民館体制を維持しつつ、地域の拠点施設として教育力の向上や豊かな地域社会の構築に繋がるよう施策を進めていくとした「大津市の公民館のあり方」について議決を得ています。

しかしながら、同あり方の結びでは、現在の小学校区を単位としたまちづくりの構成を見直すのであれば、公民館においても例外ではなく、支所機能や各種団体の構成も含めて大津市全体の方針として打ち出していかなければならないとしています。

こうした中、平成27年度には副市長を委員長とした「市民センター機能等あり方検討委員会」で協議を進め、市民センター機能のあり方を検討しています。平成28年度も引き続き、市民センター機能のあり方検討を進める中で公民館の適正な規模や配置について検討していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(2) 公民館整備に係わる長期計画の必要性

公民館の建替については市民部自治協働課が所管している。公民館施設を検討するにあたっては最近建築した公民館と同様の施設を配置することを前提に、さらに地元住民の意見を反映し、施設が増大する傾向に有り、貸室の稼働率等を勘案した公民館施設の有効活用の視点が欠けている。その結果、田上公民館においては新しく建て替わっても稼働状況は全く変わらず同じように低利用状態となっているうえ、地元住民の要望として設置された3階の展示室については開館以来未だ利用されていない状況である。

教育委員会は、公民館の担当部局として、公民館施設計画の段階から積極的に関わるべきである。その際、稼働率が低く他の公民館も利用できるような施設は統合を行うか、あるいは利用状況を踏まえて施設の規模を縮小するというような要素を含めた、大津市全体としての公民館施設の施設整備長期計画を作成する必要がある。

(講じた措置の内容)

公民館の整備に当たっては、計画段階から市民センターの建設原課である自治協働課と協議を行っています。市民センターは地域拠点としての機能があり、大津市の各種計画における様々な役割を担っており、単純に公民館としての稼働率のみでその有効性を判断するものではないと考えています。しかしながら、平成27年3月に「大津市公共施設適正化計画」が策定され、「第二章 4 施設分類別個別計画に向けた取り組み」の中で、「公民館の需要や利用者の利便性、コミュニティの醸成等を鑑み適正な規模や配置を検討する」とされたことから、市民センター機能のあり方検討を進める中で公民館の適正な規模や配置について引き続き検討していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(3) 支所と公民館のあり方

大津市は、支所と社会教育施設である公民館を併設した市民センターとして施設整備を行ってきた。しかし、その施設面積の過半は社会教育施設である公民館であるにもかかわらず、施設整備は支所の担当部局である市民部自治協働課が主として行うなど、施設整備に関する責任の所在が不明確な部分も見受けられる。また、施設の有効活用を行う場合にも、2つの部局が相互に兼務することにより運営を行う事には、非効率な面も存するものと思われる。今後公民館の整備計画を作成する際に、支所と公民館を併設する現在の方式の是非についても再検討されたい。

(講じた措置の内容)

複合施設の施設整備においては、それぞれの担当部局が個々に実施すると事務が輻輳することから、一部局で統一的に事務を行い、効率的な事業推進を図っています。このため、市民センターの施設整備については自治協働課が主となり実施しています。また、2つの

部局が相互に兼務することによって、最小の人員で事業運営ができるよう配置を行っています。支所と公民館を併設する現在の方式の是非については、公共施設マネジメントや支所、公民館のあり方を検討する中で検討していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(報告書 151頁)

#### (4) 講座等開催事業の効率化

公民館が開催する事業のうち定期講座や討論会等については月に1、2回がほとんどであり、体育、レクリエーション等に関する集会においては開催していない館がおよそ半分となっている。原因としては、1人の嘱託職員に企画を頼っていることや1館当たりの事業報償費が20万円に満たない予算規模であることなどが考えられ現状の小学校区ごとの公民館単位の事業を行う弊害が出ていると思われる。

現在一部の公民館では公民館同士で共催した講座を開設しているが、公民館事業をさらに効率良く、活発に行うためにもさらに共催事業を増やし、また他の社会教育施設とも連携を図る等、1公民館のみの企画事業ばかりでなく、工夫を凝らして事業を活性化することが必要である。さらには隣接する公民館や大津市内を区分している5つのブロック単位で事業を計画するなど公民館自主事業の効率化、集約化を検討する必要がある。公民館を統合して事業を実施することも視野に入れ、より効率的な事業実施方法を検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

公民館講座の内容については、平成24年度の事務事業二次評価の結果により、講座内容の精査を行い、市長マニフェストに沿った地域の社会的課題の解決に繋がる事業に特化して実施しているものです。

現在、複数公民館での共催事業や地域団体との共催事業を実施していますが、今後においても、これらの拡大に努め、生涯学習専門員相互のスキルアップを図っていきます。

なお、平成27年3月に「大津市公共施設適正化計画」が策定され、「第二章 4 施設分類別個別計画に向けた取り組み」の中で、「公民館の需要や利用者の利便性、コミュニティの醸成等を鑑み適正な規模や配置を検討する」とされています。これを受け、市民センター機能のあり方検討を進める中で公民館の適正な規模や配置は勿論、生涯学習専門員の配置も含め、講座等開催事業の効率化について検討していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(5) 使用料の減免について

① 自主学習グループに対する減免

各公民館への調査票の回答によると、利用者団体以外の自主学習グループの利用料を減免していないとする公民館もあったが、減免している公民館は 25 館あった。運営の手引によると、自主学習グループ等が、住民に広く門戸を開けて学びの成果を地域社会に還元する目的で使用する場合は減免できるとされている。監査人が出向いた公民館でその減免申請書を確認したところ、減免したことが分かるだけで、そのグループの活動状況や詳細な使用目的といった減免できるとするに足る根拠資料の提示はなく、客観的に減免の可否を判断することは不可能であるとともに、減免理由を質問しても明確な説明は受けられなかった。

実際に減免するかどうかの判断は各公民館に委ねられており、減免する場合はそのグループの詳細な活動内容、使用目的、どのように地域に還元しているか等の書類を完備し、減免できるとする根拠資料を保存すべきである。

② 利用者団体への登録

実際に出向いた公民館 2 館について調査した結果、利用者団体として登録するにあたって遵守すべき別記登録基準を満たしていない団体は次のとおりである。

① 瀬田北公民館 (利用者団対数 25)

会員総数が 10 人以上いない 3 団体

入会金を徴収している 5 団体

指導者や流派の育成につながるような教室的なグループに該当 1 団体

② 膳所公民館 (利用者団対数 50)

会員数が 10 人以上いない 10 団体

隣接学区を含む学区居住者が 6 割以上でない 9 団体

利用者団体に係る登録要綱において、利用者団体の定義、役割、申請の要件などを細かく規定している。また、毎年度の申請の要件として 19 項目に及ぶ登録基準を別途定めており、すべての要件を満たさなければ利用者団体として登録されないことになっている。ただし、一旦登録された後、基準の一部を満たさなくなっても満たす努力をすること等を条件に登録解除を猶予される運用がなされている。

本来は毎年申請して登録基準を満たした場合に利用者団体として登録されることになっており、運用上の猶予があるとしても、長期間基準を満たさなくなっている団体については、利用者団体の登録を認めないようにし、利用にあたっては使用料を徴収すべきである。

(講じた措置の内容)

① 自主学習グループに対する減免

公民館使用料の減免については、平成 27 年 11 月市議会通常会議において条例改正を行い、それに併せ大津市立公民館使用料減免に関する取扱基準を改定しました。自主学習グループ等の使用に対する使用料減免は、その活動内容によって適用の有無を判断することから、申請時において目的、内容、対象等を確認しており、これらの記載等減免の根拠が明らかになるよう指導を徹底し、平成 28 年度から運用していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

## ②利用者団体への登録

利用者団体の登録については、大津市立公民館の利用者団体に係る登録要綱を設置し、規定しています。平成 27 年 11 月市議会通常会議において公民館使用料の減免に係る条例改正を行うとともに、利用者団体登録要綱についても改定を行い、利用者団体の役割等について明確化しました。地域還元に係る具体的な基準についても明確化し、団体の活動実績において基準を満たす団体を登録することとしています。なお、会員数等については、団体育成の観点から原状に応じて見直しを行い、平成 28 年度から適用していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(報告書 152 頁)

### (6) 利用者団体の公共性

利用者団体の役割として、学習活動により習得した知識及び技能を広く地域に還元する活動が最初に挙げられ、別記登録基準においても最初に「そのグループの学習活動及び内容が明確であるとともに、学習成果を地域に還元することが期待できるもの」とある。しかし、具体的にどのように地域に還元していれば基準を満たしているのかが抽象的で、かつ具体的な基準が定められていないため、全ての利用者団体においてその公共性を判断することができない状況であった。公民館は、「学習成果を地域に還元すること」を厳格に判断し、安易に使用料減免を行うべきでない。

(講じた措置の内容)

平成 27 年 11 月市議会通常会議において公民館使用料の減免に係る条例改正を行うとともに、利用者団体登録要綱についても改定を行い、利用者団体の役割等について明確化しました。地域還元に係る具体的な基準についても明確化し、団体の活動実績において基準を満たす団体を登録し、平成 28 年度から適用していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(7) 使用許可申請書について

公民館を使用させるに当たっては、利用者の団体名等から判断することなく、その活動内容や目的によって使用可能かの判断をすべきであり、公民館担当者が使用の可否を判断した内容として利用者から提出される使用許可申請書の目的欄に記載された内容が重視されるはずである。しかし、訪問した公民館で実際の使用許可申請書を見ると、使用目的欄に具体的記入がされておらず、空欄であったり、団体名のみ記入されたりしているものが散見された。定期的に利用している団体であっても、そのときに使用する目的によっては貸出しできない場合も当然考えられるため、目的欄の記入を徹底すべきである。

(講じた措置の内容)

公民館の使用については、団体の如何に関わらず、利用目的が公民館の設置目的に合致しなければ許可できないものであります。使用の許可決定に際しては使用目的の確認が必須事項であるため、目的欄の記載については指導を徹底します。

(教育委員会 生涯学習課)

2 意見

(1) 利用者の営利性

公民館利用者は施設を営利目的で使用することはできず、手引きには「営利」の解釈の一つとして指導者が参加者を募り、参加費を徴収して行う学習会、講座が挙げられている。指導者が主導して活動しているかどうかの判断は大変難しいのではあるが、以下のような団体が見受けられた。

・(事案1)

武道のグループで、それぞれ代表者及び事務局の責任者は異なっているが、指導者は同じで数箇所の公民館で同じ流儀を謳っている。グループ規約は同じ印刷された文書で、グループ名の箇所だけが手書でそれぞれの団体名が記入されている。利用者団体申込書は代表者名以外同じ筆跡であり、会員名簿や収支決算・予算書とも同じ筆跡であった。さらに、その講師のホームページを見ると公民館で行われている講座があたかもその講師が主催している教室かのような記載内容であった。

・(事案2)

代表者及び事務局の責任者は違うダンスグループが複数あり、指導者は同じで、同じ公民館で年齢・学年順に毎週決まった曜日と時間でレッスンが開かれている。別の公民館でも同様にその指導者の下でレッスンが開かれており、年末には県の施設にてその指導者に習っているグループが一同に会し、全てのグループの冠名

を謳って発表会を行っている。全部で 8 グループあり、順番に発表していくが、一部違う公民館のグループ同士で同じ出し物を演じたり、全員で同じ出し物を演じたりするプログラムもある。

上記のように、外部から見ると指導者が主導して会費を徴収しながらレッスンを行っており、公民館が特定の営利事業を支援し特定人にその収益を帰属させていると疑われても仕方がないような活動である。はじめから現状のような利用状況ではなかったかもしれないが、長年にわたる活動の中でグループそのもののあり方が変わっていくことも考えられ、以前から利用しているからという安易な理由で使用を許可せず、常にグループの活動状況を確認しながら利用可能か否かの判断をすべきであり、再度公民館において検討を行い、営利性が認められるのであれば使用許可を取り消すべきであり、早急に実態把握を行い対処されたい。

(講じた措置の内容)

利用者団体の中で私塾化、カルチャー化しているものにつきましては、これまでも随時指導を行っており、その結果、登録を取り止めた団体もあります。また、毎年、登録時にチェックし、改善の必要な団体には指導を行っています。今後も、実態把握に努め、営利目的やそれに類する状態となっている団体については適切に対処していきます。

(教育委員会 生涯学習課)

(報告書 153頁)

## (2) 坂本公民館分館の必要性

坂本公民館分館は平成 23 年度まで存していた坂本教育集会所の廃止にともなう施設を公民館分館として設置したものであり、特に坂本公民館分館が必要とされる理由は明らかにされなかった。当分館近くに日吉台公民館や坂本公民館も設置されている上、職員が 1 人常駐しているにもかかわらず稼働率は 0.7% であり、その必要性を吟味し、分館の廃止も視野に検討すべきである。

(講じた措置の内容)

坂本公民館分館を廃止することについて、地元との協議が整ったことから、平成 28 年 2 月市議会通常会議において議決を得、平成 27 年度末をもって閉館し、平成 28 年 4 月 1 日付けで廃止します。

なお、今後の利用については引き続き地元と協議を進めていきます。

(教育委員会 生涯学習課)

## [2] 生涯学習センター（科学館を含む）

### 1 監査結果

（報告書 169 頁）

#### （3）総合管理委託業務

##### ④委託業務の確認

担当者は、契約書、仕様書、仕様細則に定められている内容を正確に把握できておらず、適正に業務が行われているかの確認も不十分である。各種報告書が提出されているだけで業務が適正に行われていると思込まず、業務体制の確認や現場確認、業務責任者からの聞き取り等を積極的に行い、委託業務が適正に行われているか確認すべきである。また、平成 24 年度以前の日常管理業務日報が破棄されて全く保存されていなかった。定められた期間内は保存すべきである。

##### （講じた措置の内容）

委託業務については改めて契約書、仕様書等の内容を把握し、確実に履行確認を行うようにしました。

日常管理業務日報は、全ての委託業務について所長が確認していますが、平成 24 年度以前の日報が保管されていなかったことについては、今後十分注意し、定められた期間内の保存を徹底します。

（教育委員会 生涯学習センター）

### 2 意見

（報告書 171 頁）

#### （4）科学館常設展示更新事業

##### ①契約方法の見直し

天津市は、展示ホール更新基本設計委託業務をプロポーザル方式にて業者選定し 2,625 千円で随意契約しているが、設計が終わった後の更新事業も請け負わせる契約内容になっている。更新事業金額は実際に請負契約を結んでいないため不明であるが上限額を 157,500 千円としており基本設計委託業務に比べ高額である。科学館の常設展示品のリニューアルということで、価格以外の企画力や創造性などの要素を含めて総合的に判断する必要があることからプロポーザル方式を選択したことは理解できるが、全体総工費や保守料などの価格についてはプロポーザル時にほとんど考慮されていないうえ、2,625 千円の基本設計委託業務契約を結ぶ内容で更新事業も請け負わずのは問題である。

天津市は詳細な仕様を示した企画提案要領を交付し、設計や施行、保守も含めた全体的内容でプロポーザル方式にて委託業者を選定すべきである。あるいは、設計業務を行って詳細な仕様を決めた後に、競争入札にて更新事業について業者選定をすべきである。

## ②工事請負とリース契約

常設展示更新事業は、展示品そのものの購入だけでなく、古い展示品の処分から新しい展示品の設置にかかる工事についても請け負う内容となっており、このような業務内容でリース契約の対象とすることが可能かどうかの明確な規定が存在していない。

大津市は、指名競争入札にて第三者金融会社を選定し長期継続契約として 5 年にわたるリース契約を結んでいる。長期継続契約とは、物品を借り入れる契約のうち、商慣習上複数年にわたり契約を締結することが一般的であるもの(大津市長期継続契約を締結することができる契約を定める条例第 2 条)とされており、このように工事部分が多く含まれるものに対してリース契約を結ぶという行為は商慣習上一般的でない。工事請負契約とリース契約の関係についてルールを明確にする必要がある。

## ③ファイナンス・リース契約の取扱い

このリース契約は、途中解約した場合には損害賠償を請求されることから実態は解約不可能であり、契約期間 5 年終了後には無償譲渡されるということからもファイナンス・リース取引に該当すると考えられ、実質的に物品購入と変わらない内容である。このような契約内容でかつ高額な取引を、議会承認や債務負担行為もなく長期継続契約で締結している現行の取扱いを再検討されたい。

(講じた措置の内容)

### ①契約方法の見直し

科学館の展示企画については、より来館者に満足いただけるよう、民間の様々なアイデアを取り込むべく、プロポーザル方式を取り入れたものです。次回のリニューアル時期は決まっておりますが、更新規模により、指摘にあった選定方法も取り入れ、業者を選定します。

(教育委員会 科学館)

### ②工事請負とリース契約

平成 26 年度には、リース契約事務の基本的な方針をまとめた素案を作成し、平成 27 年度には素案を元に契約実態や関係課の意見を集約し、リース契約事務についての根拠法令と事務処理手順を示すものとして、「リース契約ブック」を作成し、平成 27 年 9 月に全所属へ周知しました。

(総務部 契約検査課)

### ③ファイナンス・リース契約の取扱い

契約検査課で作成された「リース契約ブック (平成 28 年 2 月第 2 版)」に基づき、次期更新時には手続を進めます。

(教育委員会 科学館)

[3] 北部地域文化センター

1 監査結果

(報告書 173頁)

(1) 業務委託の確認方法について

平成 24 年度に施設維持管理業務等委託料として 20,913 千円支出しており、その内契約金額が 1,000 千円以上のものは総合設備管理業務、舞台ホール運営業務、清掃業務の 3 件であった。それぞれの契約書、仕様書の記載内容と委託業者から提出されている書類等を確認したところ、次のように契約内容が履行されていない事項や北部地域文化センター担当者が確認できていない事項があった。

業務内容 (平成 24 年度委託料：千円)	問題点	契約書・仕様書	実状	改善すべき事項
総合設備管理業務 (7,455)	業務体制	技術員のみ記載。	統括責任者 1 人・事務責任者 1 人・業務担当者 2 人配置する名簿提出あり。	・仕様書に必要な業務体制と人員配置の記載が必要である。
	業務体制簿・個別調書	提出義務記載なし。	平成 23 年度業務体制名簿と業務担当者履歴書提出あり(24 年度提出なし)。	・仕様書に提出義務の記載が必要である。 ・年度当初に必ず提出させるべきである。
	点検報告書	1.設備運転管理業務、2.建築物環境衛生管理業務、3. 吸収式冷温水機保守点検業務について点検報告書提出記載なし。	・1 について業務報告書提出あり。 ・2 の業務のうち、空気環境測定報告書を確認したが、測定者と建築物環境衛生管理技術者が業務再委託先会社の従業員であった。	・日常業務と定期点検業務全てにおいて仕様書に点検報告書の提出義務の記載が必要である。 ・1 の業務報告書に勤務者の自署と勤務時間の記載が必要である。
	業務の再委託	基本再委託禁止・大津市承諾の場合可能(契約書第 6 条)。	・建築物環境衛生管理業務の一部について再委託を確認。 ・申し出と承諾手続の書面確認不可。	・再委託を承諾する場合には委託者からの申し出と大津市の承諾手続が必要である。
舞台ホール運営業務(7,245)	業務体制	常駐操作員のみ記載。	統括責任者 1 人・事務責任者 1 人・業務担当者 2 人配置する名簿提出あり。	・仕様書に必要な業務体制と人員配置の記載が必要である。

	業務体制簿・個別調書	常駐操作員の履歴書提出のみ記載あり。	平成 23 年度業務体制名簿と業務担当者経歴書提出あり(24 年度提出なし)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に提出義務の記載が必要である。</li> <li>・年度当初に必ず提出させるべきである。</li> </ul>
	日常業務報告	勤務簿の提出。	業務報告書の提出あり。	・仕様書に勤務簿ではなく、日常業務報告書提出義務の記載が必要である。
	業務計画書	提出義務記載なし。	月間催物予定表に催し物予定と勤務体制等を記入して提出。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に月間計画書の提出義務の記載が必要である。</li> <li>・月間計画書に催し物だけでなく、打ち合わせ予定等の他業務についても記載が必要である。</li> </ul>
清掃業務 (1,901)	業務体制	事務責任者・現場責任者・作業員(ただし承諾後、現場責任者と作業員兼務可)。	事務責任者 1 人・事務副責任者 1 人・業務責任者 1 人・業務副責任者 1 人・業務担当者 2 人選任している名簿届出あるが、現場常駐者は業務担当者 1 人のみ。	・現場責任者と作業員を委託業者は選任しているが、現場業務には作業員 1 人しか勤務していない。現場責任者も現場業務に従事させ現場管理を行わせるべきである。
	業務体制簿・個別調書	提出義務記載あり。	平成 23 年度業務実施体制届提出あり(24 年度なし)。	・年度当初に必ず提出させるべきである。
	業務計画書	提出義務記載あり。	平成 23 年度業務計画書の提出あり(24 年度なし)。	・年度当初に必ず提出させるべきである。
	日常業務報告書	提出義務記載あり。	提出あり。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場責任者と作業員の勤務時間の記載が必要である。</li> <li>・従事業務レ点チェックのみではなく、館内設備機器の状況や館内外破損状況等の報告事項の記載も必要である。</li> </ul>

上記項目について改善が必要であるとともに、北部地域文化センター担当者は業務内容を正確に把握したうえで契約書・仕様書等を作成し、契約書・仕様書等に記載された内容で委託業務が適正に行われているかを確認すべきである。

(講じた措置の内容)

総合設備管理業務の業務体制簿・個別調書については必要書類を提出させました。業務報告書の記載内容については改善済です。業務の再委託については平成 25 年度からなくしたため、手続き不要となっています。

舞台ホール運営業務の業務体制簿・個別調書については必要書類を提出させました。業務報告、業務計画書の内容についても改善済です。

総合設備管理業務、舞台ホール運営業務の仕様書については、監査意見を参考に見直し、平成 28 年度からの入札の時に改めました。

清掃業務の業務体制については仕様書に沿った体制名簿、個別調書を提出させました。業務報告書の記載内容については、監査意見を参考に見直しました。

(教育委員会 北部地域文化センター)

(報告書 175 頁)

## (2) ホール施設の貸付

北部地域文化センターでは、ホールを貸し出すときに 1 日 1 組を前提にしており、例えば 1 日の内で 1 区分でも使用されたら残りの区分は貸し出さないことにしている。その理由として、利用者が時間どおりに終わらないこと等を挙げている。平成 24 年度における開館日数に占める稼働日数の割合は 41.5%であるが、開館時間に占める稼働時間の割合はかなり低くなるものと思われる。

北部地域文化センター担当者は、利用者と使用時間内に催しの準備から片付け、退室までが可能かを事前の打ち合わせで詳細に確認してから使用許可すべきであり、利用当日においても時間どおりに運営されているかの確認や管理等を行う必要がある。

また、使用許可を 1 日 1 組に限定せず、空いている時間帯を使用許可し、施設を有効に活用すべきである。

### (講じた措置の内容)

当ホールの貸室部分は、500 人ホールとホール利用者に限定したリハーサル室の二つです。ホールは可動椅子で、椅子を収納すると平場として大会議室などに活用できるような構造になっています。舞台についても演劇や反響板を使った音楽発表会まで、幅広い利用が可能な施設となっており、それぞれの利用に合わせた準備と片付けに時間が必要です。

そのようなことから、1 日の利用時間帯は 3 つの区分に分かれています。原則として 1 日 1 組に限定して利用を許可しているものです。しかし、御指摘のとおり、単なる講演会など会場の片付けや準備の必要のないものについては、1 日 1 組に限らず利用していただき施設の有効活用をしています。

(教育委員会 北部地域文化センター)

## 2 意見

(報告書 176 頁)

### (2) 喫茶コーナーの運営について

北部地域文化センターは、1階ホールに隣接した場所(14.5㎡)を、喫茶コーナーとして施設利用者への飲食物を販売する目的で個人へ貸している。使用計画書と使用許可条件に、営業日は休館日を除く15日以上、営業時間は午前9時から午後5時(催しにより随時延長)とされている。しかし、利用者が少ない場合に決められた時間どおりに営業されておらず、使用計画書と使用許可条件どおりでない状況である。利用者の利便性の観点から使用許可どおりの運営を行うよう指導するとともに、今後の喫茶コーナーの運営のあり方を再検討すべきである。

#### (講じた措置の内容)

北部地域文化センター内に喫茶コーナーを開設し、飲食物を提供することで、センター利用者の憩いの場となるとともに、気軽に手ぶらで安心して利用できる施設としての利便性の向上に努めています。

また、センター利用者からの喫茶継続の希望も多くあることから、入店者を平成27年に公募し営業を継続しています。

また、センター利用者の更なる利便性の向上の観点から、喫茶コーナー営業時間を見直すとともに、平成27年度中に自動販売機を試行的に設置した結果、平成28年度から本格実施することとなりました。

(教育委員会 北部地域文化センター)

## [4] 和邇文化センター

### 2 意見

(報告書 177 頁)

### (1) ホール等施設の稼働率向上

ホール等施設の稼働率はそれぞれ時間帯区別では20%を下回っており有効に施設が活用されているとは言い難い。確かに営利目的等では貸し出しできないことや音漏れの関係でホールとリハーサル室を同時に貸し出すことが難しい等の制約があり、和邇文化センター担当者も苦勞されていることは理解できる。しかし、講座等開設事業については毎年同じように開催しているのみであり、さらに講座等を増やすべきである。また、公民館等の他施設と連携して事業を企画したり、公民館利用者団体等に和邇文化センターの利用を促すような方策を講じたりすることも必要である。

#### (講じた措置の内容)

当ホールについては、客席が固定席のため、利用が舞台発表や講演会等に限定されていますが、公民館事業や図書館事業のホール利用促進を図るとともに、舞台を活用した演劇や吹奏楽の練習・発表についても市内学校関係者に周知し、利用促進を図っています。今

年度につきましては、昨年度に引き続き、子ども映画会を各学期末に実施するとともに、毎月発行の「和邇文化センターだより」を旧志賀町の各学区に配布し、ホールの利用促進を継続して行っています。

なお、稼働率向上のために講座等を増やすべきとの意見については、講座を開講するに当たっては、開催時期・講師の選定・日程調整・講座周知等相当量の業務と準備期間が必要であり、現在の本務4名の人員で、本務の文化ホール管理運営業務以外に兼務業務として市民体育館・市民運動場・テニスコートの管理・運営業務（日々の受付業務や抽選会・使用許可・料金徴収・施設維持等）を行っている状況下では、講座等の増設は、困難であると考えています。

(教育委員会 和邇文化センター)

## [5] 図書館

### 1 意見

(報告書189頁)

#### (1) 不明図書対策について

平成24年度の蔵書点検において、不明資料は合計6,808冊である。5年連続不明となった場合は除籍処理をされるため、6,808冊は平成20年度以降の過去5年間に不明となっている図書の数である。

不明図書は不正持ち出しや盗難など、貸出処理をされていない図書が館外に持ち出されたことが原因である。現在、津市立図書館では、書籍等の盗難防止策は講じられていない。盗難防止策としては、警備員や監視カメラの配置やロッカーを設置して、個人の荷物を図書館に持って入らないようにすることや、貸出処理をしていない図書を持ったまま出入口に設置されたゲートを通ると警告音が鳴るシステムであるブックディテクション・システムの導入などがある。いずれも一長一短あるが、平成24年度には1,005冊もの図書が不明のため除籍処理されており、市民の重要な資産を守るために不明図書対策が必要である。

#### (講じた措置の内容)

市民の財産である図書を不明図書にしないよう、本棚の配置の工夫や利用者のモラル向上の啓発のための館内掲示に取り組んできましたが、実績は横這いで、毎年1,000冊程度の図書を除籍しています。

従来、防犯カメラを4台設置していますが、故障のため使用停止していたため、平成27年度は、具体的な盗難防止策の一つとして、録画装置を備えた防犯カメラ（監視カメラ）を3台追加しました。

今後も、不明図書の減少を目指した取組を進めます。

(教育委員会 図書館)

(報告書 189頁)

### (2) 図書購入額について

大津市の運営方針の1.に「市民の求める図書を自由に気軽に貸し出すこと」とある。しかし、図書購入費は図書館費 293,917 千円の 11.50%の 33,799 千円である。しかも、志賀町と合併する前に図書館が本館と北図書館だけだった時と比べて和邇館が増えて3館になったにもかかわらず、図書館の資料費(図書整備費)は増えていない。市民の求める図書を貸し出すためには、「本」そのものが必要であり、「本」は図書館を構成する大切な要素の一つでもある。大津市の図書購入費は他の人口 30 万人から 40 万人の中核市の平成 22 年度決算額の平均 42,853 千円より 10,053 千円も少ない 32,800 千円である。滋賀県内の他の市町と比較しても人口 1 人当たり資料費は最下位である。大津市立図書館が市民にとって魅力ある図書館であるために、図書の確保につき検討されたい。

#### (講じた措置の内容)

市民の読書ニーズに応えるための蔵書構成と、そのための図書購入費の確保は図書館の重要な使命の一つであると考えています。図書購入予算の確保に努めた結果、僅かずつですが増額し、平成 26 年度決算額は 36,598 千円となりました。

一方、平成 28 年度から、新たに京都市図書館との相互利用が開始されることにより、大津市民が利用できる資料が大幅に増加し、他の市町と比して図書購入費の割合が低いことを補填できると考えられます。

(教育委員会 図書館)

(報告書 190頁)

### (3) 職員の配置について

図書館職員は、図書館を構成する 3 要素のひとつであり、人件費も 200,522 千円と図書館費の 68.2%を占めているにもかかわらず、実際の職員の配置については、過去の知識や経験を生かすことのできる人材が配置されておらず、将来に向けてよりよいサービスを提供できるような体制になっているとは言えない。

#### ①館長について

文部科学省は図書館の健全な発達を図るために、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を定めている。平成 24 年 12 月に改正、施行された新基準によると、図書館長については、「その職責にかんがみ、図書館サービスその他の図書館の運営及び行政に必要な知識・経験とともに、司書となる資格を有する者を任命することが望ましい」とされている。

しかし、大津市本館の平成 15 年から平成 24 年の 10 年間を見ると、図書館での勤務経験がある館長は 1 名のみで、10 年間に 8 名が館長となっており、ほぼ毎年館長が変わっている。

また、1 名を除き過去に図書館での勤務経験もなく館長に就任しており、知識・経験があ

るとは言い難い。司書資格を持った館長も10年間で2名である。また館長就任期間も半数の5名が1年間である。市においては前年度に予算要求を行い、当年度の予算が決まるのであり、運営や行政について、新たな企画等を1年や2年の短期間で遂行することは不可能である。つまり、市は、「図書館の改革」や「運営の方向性を定める」など中長期的な視野に立った役割を担うことを館長に求めていると考えられる。職務分担表にあるように「館の統括」という意味でも、1年ではよい成果を期待できない。館長については、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」にあるように、知識・経験そして司書となる資格を有する者がある程度の年数は継続して任命することが必要である。

## ②職員について

図書館において、いかなる「本」を購入するかということは、大変重要なことである。購入する本を選ぶことを、選書と言う。天津市立図書館本館の担当者によると、選書は、図書館員の経験やカウンターでの利用者との対話、その他、新聞・書評・雑誌・テレビ・インターネット等を参考にし、常に世の中の動きにアンテナをはり、行われているとのことである。

このような選書業務は、個人の経験、資質によるところが多く、一朝一夕にスキルを身に付け、行うことのできるものではない。選書がきちんとできるようになるまでには数年の経験を必要とするとも言われている。しかし、天津市の人員配置を見ると、平成24年度においては、本館の選書担当の正職員は司書資格を持たない、勤続年数が1年目の2名と4年目の1名の3名である。嘱託は、司書資格を有する勤続年数20年目及び4年目の嘱託2名が選書担当で、合計5名である。司書資格を持ち、図書館勤続年数19年の職員（次長）が選書担当ではないが、指導を兼ねて選書に携わるようにして、選書業務に支障をきたさないようにしていたとのことであるが、本来の選書担当職員に必要な経験・知識が備わっていない人員配置であったため、通常以上の指導を含めた選書業務を当職員が担う必要があったと思われる。また、平成24年度の選書担当の正職員3名は、平成25年度は一人も図書館で勤務していない。

市民の関心を汲み取り、地域性などを考慮したよりよい選書を行うためには、職員が知識・経験を積むことができ、さらにそれを引き継いでいける職員配置が必要である。

（講じた措置の内容）

## ①館長について

図書館長に限らず、全ての施設長（所属長）について、適材適所を基本に人事異動を行っており、特に「長」のつく役職への配置については、職員がこれまで習得、習熟してきた知識や技術を活かし、組織力の向上や複雑多様化する業務への対応等ができるよう経験者の配置に努めているところです。

図書館長の在課年数が相対的に短期間となっていることについては、組織全体の異動の結果によるところですが、異動により市民サービスの低下に繋がることのないよう今後さらに留意していきます。

(総務部 人事課)

②職員について

知識・経験及び技術継承の観点からも、そのための体制整備が求められていることは認識していますが、職員総数を抑制している中、正規職員の増員配置は困難な状況です。

今後も、選書業務に必要な経験・知識をもつ再任用職員・嘱託職員の活用も図りながら、その体制整備に努めていく必要があると考えます。

(総務部 人事課)

## (4) 開館時間及び休館日について

大津市は、「市民の求める図書を自由に気軽に貸し出すこと」及び「あらゆる人に図書を貸し出し、図書館を市民の身近な施設とすること」を運営方針としている。大津市の現在の市民一人当たり貸出冊数、登録率は県内最下位であり、決して「あらゆる人」が「図書館を身近な施設」として、「図書を自由に気軽に」借りられているとは言えない。その理由は、開館時間と立地条件にもある。

大津市の図書館の開館時間は以下のとおりである。

	本館	南郷公民館 図書室	北図書館	和邇図書館
火曜日から土曜日	10:00～19:00	10:00～18:00	10:00～18:00	10:00～18:00
日曜日	10:00～17:00	休館	10:00～17:00	10:00～17:00
休館日	月曜・祝日(土・日の場合開館) 月末の木曜日(8月・12月除く、9月は第1土曜も休館)、年末年始	日曜・月曜・祝日・年末年始	本館と同じ	本館と同じ

近隣の市立図書館(本館)の開館時間は以下のとおりである。

	開館時間				休館日
	平日	土曜日	日曜日	祝日	
大津市	10:00～19:00		10:00～17:00	休館日 土・日の場合開館	月曜・国民の祝日(土・日の場合開館)・年末年始 月末の木曜日(8月・12月除く、9月は第1土曜も休館)
京都市	10:00～20:30		10:00～17:00		火曜日・年末年始
大阪市	9:15～20:30		9:15～17:00		毎月第1・3木曜日・年末年始
神戸市	9:15～20:00		9:15～18:00		月曜日・年末年始
奈良市	9:30～19:00		9:30～17:00	休館日	月曜日・国民の祝日・年末年始・毎月末
和歌山市	10:00～20:00	10:00～18:00(18:30-4月から9月)		休館日	金曜日・国民の祝日・年末年始・毎月末
名古屋市	9:30～20:00	9:30～19:00	9:30～17:00		月曜日・第3金曜日・年末年始
津市	9:00～19:00	9:00～17:00			火曜日・最終木曜日・年末年始

上記のとおり、大津市の市立図書館の開館時間は近畿の県庁所在地の市立図書館の中で最も短い。大津市立図書館の月曜日以外の平日の開館時間は本館が10時から19時、北館及び和邇館は18時までと会社勤めの市民には利用しにくくなっている。また、休みの曜日を固定していることから、月曜日のみが休みの仕事を持つ市民には利用することができない。近隣他市の中で最も開館時間が短いことから、開館日を工夫したり、開館時間を延長したりするなど、市民のニーズに応じて検討することが必要である。

(講じた措置の内容)

開館日については、平成26年度から、これまで閉館日としていた9月の第1木曜日及び

祝日の内 11 月 3 日の文化の日は曜日に関わらず開館とし、利用者の利便性を図っています。その他の祝日開館、開館時間の延長については、市民意識調査や図書館独自で実施した利用者アンケートの結果と他図書館での時間延長の効果に関する調査結果も参考にしながら以前にも検討しましたが、現時点では人員、経費の面から困難な状況です。

(教育委員会 図書館)

(報告書 1 9 2 頁)

(5) 図書館に対する市民の声について

現在、大津市立図書館に対する市民の意見や要望について、市民の 14%である来館者は各図書館に設置されている意見箱を利用して伝えることが可能であるが、来館できない又はしていない 86%を占める市民にとっては、意見を伝えやすい環境が整っていない。

大津市の平成 23 年度の利用冊数資料によると、下記のとおり 19 歳から 29 歳の利用が少ない。

(年齢別利用者の状況)

区 分	貸出冊数				年齢別貸出数割合			
	合計	本館	北図書館	和邇図書館	合計	本館	北図書館	和邇図書館
0～9歳	233,368	139,880	50,750	42,738	14.53%	15.47%	13.92%	12.67%
10～18歳	162,730	103,187	35,178	24,365	10.13%	11.41%	9.65%	7.22%
19～29歳	90,381	49,739	22,478	18,164	5.63%	5.50%	6.17%	5.39%
30～39歳	255,826	148,308	61,066	46,452	15.93%	16.40%	16.75%	13.77%
40～49歳	266,101	153,660	62,713	49,728	16.57%	16.99%	17.20%	14.74%
50～59歳	182,538	90,720	45,802	46,016	11.37%	10.03%	12.56%	13.64%
60歳以上	415,131	218,748	86,573	109,810	25.85%	24.19%	23.75%	32.56%
年齢不明	12	9	3	-	0.00%	0.00%	0.00%	-
計	1,606,087	904,251	364,563	337,273	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

(注)大津市統計年鑑平成 24 年度版より集計したため、年齢の区分が 10 歳毎となっていない。

利用者の貸出冊数を年齢別に見ると、19 歳から 29 歳の割合が他の年齢区分に比して半分以下の全館合計で 5.63%となっている。

時事通信社が 2005 年に行った「図書館に関する世論調査」において、公共図書館を利用しなかった理由は

1. 本を読まない
2. 本を借りたり返したりするために、図書館に出掛けるのが面倒だ
3. 本は買ったり、人から借りたりして読む
4. 公共図書館が近くにない
5. 開館時間中に図書館に行くことができない

などがあげられている。また、年代によってトップにあげられた理由が異なり、20 歳代では「開館時間中に図書館に行くことができない」30%、30 歳代では「本を借りたり返したりするために、図書館に出掛けるのが面倒だ」32%、40 歳以上の年代では「本をほとんど読まない」26～36%となっている。

上記調査結果は、大津市の状況とは異なる可能性はあるが、利用者の声を聞くことが大

切なことであるのと同時に、大津市民がどのような理由で図書館を利用していないのか、又はできないのか等についての意見や要望を聞くために、図書館のトップページからより手軽に市民の声が届けられるようにするなどの対応が必要である。

(講じた措置の内容)

最近では市のホームページ上から図書館に対する御意見も寄せられています。御指摘の図書館のホームページから市民の声が届けられるようにすることについては、次回システム更新時に合わせて導入を検討します。併せて図書館を利用したことのない人が行ってみようと思う事業の開催や、広報活動、情報発信により図書館への興味喚起を引き続き行っていきます。

(教育委員会 図書館)

(報告書 193頁)

#### (6) 指定管理制度など民間活力の導入

滋賀県内において、大津市は、登録一人当たり貸出冊数以外の人口当たり蔵書数、人口当たり登録者数、人口一人当たり資料費のそれぞれで最下位である。

このような状況の中、大津市に限られた予算の中で、図書整備費を確保し、経験や知識、司書資格を重視した人員も継続的に確保しつつ、開館時間を延長する方法を考える際、業務の民間委託や指定管理者制度など民間活力の導入による実現の可能性も否定できない。指定管理制度導入には、メリット、デメリットがそれぞれ指摘されているが、メリットを最大限生かし、デメリットを最小限に抑える又はなくす方策を立てることでよりよい図書館運営を行うことが可能となる。よりよい大津市立図書館の運営について、また今後の大津市立図書館のあり方について再考し、市民及び大津市が目指す図書館の実現に向けた運営改善の取組みのため、業務の民間委託や指定管理者制度の導入など民間活力を導入することについても検討する必要がある。

(講じた措置の内容)

指定管理者制度の図書館への導入については、大津市図書館協議会に諮問し、その館長答申を受けて、教育委員会協議会で協議いただき、教育委員会として、直営を継続しながらも、業務の効率化に努めるとともに、何よりも大津市の図書館としてどうあるべきかのビジョンの必要性が喫緊の課題とされ、平成 28 年度末までの策定作業が方向性として示されました。

(教育委員会 図書館)

## [6] 文化財保護

### 1 意見

(報告書 197頁)

#### (1) 公有地化された遺跡の活用

公有地の取得のために平成 24 年度に 63,079 千円を支出し、平成 24 年度末までの 4 カ所の史跡に対する累計支出金額は 1,687,334 千円である。この事業は、国からの補助事業で 80%の補助があるが、大津市も 20%は負担を行っている事業である。

遺跡の公有地化は、毎年度予算額に応じて行われているが、大幅に計画からは乖離しており、公園として整備されて市民が利用できるのはいつか分からない状況である。

4 つの遺跡の内、穴太廃寺については案内板が設置されていた。また、山ノ神遺跡については、教育委員会設置ではないものの「瀬田史跡会」が平成 2 年に案内板を設置している。あとの、惣山遺跡、青江遺跡については案内板も何も設置されておらずほとんどの市民がその存在も知らないと思われる。

惣山遺跡には 802,051 千円、青江遺跡には 360,405 千円もの税金を投じているのであればせめて案内板は設置し、敷地内に入れるような状態までは整え、文化財の存在を市民に知らしめ、アピールされたい。

遺跡公園の整備についても、整備費用の金額と市民の満足度合いは必ず比例するものでもないと思われるので、費用をかけずに早い時期に実施できる方法を検討されたい。

また、文化財保護の観点からだけでなく、観光資源としていかに利用していくのか観光担当部局と協議し具体的計画を作成されたい。

#### (講じた措置の内容)

惣山遺跡・青江遺跡については、史跡の中心となる近江国庁跡の管理者である滋賀県教育委員会と、活用について協議を行っています。現在、この地域を含めて平成 28 年度に日本遺産申請の検討を進めており、申請が認められれば、文化財の説明板設置は勿論のこと、観光資源として活用事業を実施していきます。同じく瀬田の山ノ神遺跡については、市民協働提案事業によって遺跡が復元、整備されました。穴太遺跡については、用地の公有化が終了した部分で仮整備ができないか、検討しているところです。

(教育委員会 文化財保護課)

## [7] 歴史博物館

### 2 意見

(報告書 199頁)

#### (1) リース契約について

大津市はリース会社と「歴史博物館データベースシステム・講堂放送設備・ビデオライブラリー関連機器他一式」を賃借動産とし、平成22年11月1日から5年間、賃貸借料33,446千円とする賃貸借契約を締結した。

リース会社の選定にあたっては、平成22年10月14日入札が行われ、7社が応札した結果A社が選定されている。リース会社選定の入札においては、物件価格を31,384千円と決定した後に、金利と手数料部分につき入札が行われている。すなわち、賃貸借料33,446千円のうち物件価格31,384千円を除く2,062千円については入札により決定されている。

一方、物件価格31,384千円の内訳は下記のとおりである。

	物件名	物件価格(千円)	売主
1	歴史博物館データベースシステム	21,770	B社
2	ニンデンドーDSガイドシステム		
3	れきはくクイズ道		
4	歴史博物館講堂放送設備一式	3,900	C社
5	歴史博物館ビデオライブラリー関連機器一式	5,714	D社
	合計	31,384	

上記の物件価格及び売主の選定は、「大津市歴史博物館委託業務指名競争等参加者選定委員会」が、随意契約により決定している。歴史博物館データベースシステム等は、指名業者によるプロポーザル方式で決定しようとしたが、結果的には1社のみの応募により、随意契約が行われている。

#### ①リース契約における物件選定ルールの必要性

リース契約を締結する場合に、リース契約の基となる物件の選定に関して明確な規則が存在しない。最終的には、リース会社の選定になるが、実質的に重要なのは物件の選定であり、リース契約の基となる物件選定のルールを明確にする必要がある。

#### ②工事請負契約とリース契約

「歴史博物館講堂放送設備一式」については、放送の機器だけではなく配線の大幅な変更工事が必要となる工事請負を伴うものであり、発注の方法によっては工事請負費になるものとする。このような、工事請負を伴うようなものであってもリース契約の対象とすることが可能かどうか現在のところ明確な規定がない。もし、自由に請負契約とすべきものまでもリース契約にしてしまえるのであれば、請負契約に係わる入札手続の抜け道になる可能性があり、工事請負契約とリース契約の関係につきルールを明確にする必要がある。

(講じた措置の内容)

①リース契約における物件選定ルールの必要性

平成 26 年度には、リース契約事務の基本的な方針をまとめた素案を作成し、平成 27 年度には素案を元に契約実態や関係課の意見を集約し、リース契約事務についての根拠法令と事務処理手順を示すものとして、「リース契約ブック」を作成し、平成 27 年 9 月に全所属へ周知しました。

(総務部 契約検査課)

②工事請負契約とリース契約

平成 26 年度には、リース契約事務の基本的な方針をまとめた素案を作成し、平成 27 年度には素案を元に契約実態や関係課の意見を集約し、リース契約事務についての根拠法令と事務処理手順を示すものとして、「リース契約ブック」を作成し、平成 27 年 9 月に全所属へ周知しました。

(総務部 契約検査課)

(報告書 200 頁)

(2) 小中学校生の入館者数について

平成 24 年度の小中学校生の学校教育目的の利用による来館者は小学校 2 校、中学校 5 校(内 2 校は市外)であり、合計来館人数は 567 名に過ぎない。歴史博物館の常設展示は、大津市の歴史を学ぶ恰好の教材であり、市内小中学校に対して利用促進を働きかけ、教師の研修や児童・生徒の地域学習に役立て、歴史博物館の学校教育目的としての利用をさらに高められるように検討されたい。

(講じた措置の内容)

小・中学生による歴史博物館の団体観覧等への対応については、改めて、教育委員会設置の附属機関である歴史博物館協議会において検討している「歴史博物館の基本的運営方針」の中に位置付け、常設展示見学メニューとともに、博物館所蔵資料の学習シートも作成することになりました。つきましては、平成 28 年度中に作成、翌 29 年度に試行、その後本格実施に移るという手順で、現在準備に取り掛かっているところです。

(教育委員会 歴史博物館)